

南部拠点地区遺跡群No.8

前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴う集成文化財発掘調査報告書

110-1502

2014.3

前橋市教育委員会

前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合

有限会社毛野考古学研究所



A区 2号南北・1号東西大畦畔（上が北）



A区 2号南北・1号東西大畦畔交差部（北西から）

南部拠点地区遺跡群No. 8

前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2014. 3

前橋市教育委員会
前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業組合
有限会社毛野考古学研究所

例　言

- 1 本書は、前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴い実施した、南部拠点地区遺跡群No.8の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合の委託を受け、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は同研究所員 井上 太である。
- 3 発掘調査・整理作業の実施期間は、平成25年11月18日～平成26年3月26日である。
- 4 本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。

所在地地番：前橋市亀里町943-2	外18筆	面積：6,365m ²
遺跡番号：00785		略称：25G82
- 5 本調査の遺構測量は、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。
- 6 本書の編集は有限会社毛野考古学研究所が行い、井上が担当した。
- 7 本書の執筆は、Iを福田貴之（前橋市教育委員会）、その他を井上が担当した。
- 8 調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
- 9 発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。（五十音順、敬称略。）

〔発掘調査〕青木あつ子　青木麻耶　赤見公一　浅野眞治　荒木巻夫　井口ヒロ子　石倉稔夫
井上ゆかり　碓井俊夫　岡村美弥子　落合智恵美　金田 守　神山春示　亀田浩子　川上善平
川田敏夫　川島隆好　菊池文男　楠本正樹　佐藤幸子　篠原孝宏　清水千代　鈴木 浩
芹沢貞夫　高橋奈緒　高林 操　武井みち子　竹生正明　動使河原幸枝　都丸夏雄　永井述史
中島久子　庭山皓正　萩原秀子　横元裕児　堀口聖一　堀越国光　松井昭光　松倉秀樹
森山恵子　矢島義秋　山本良太　山田哲也

〔整理作業〕青柳美保　合田幸子　高橋奈緒
- 10 発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、以下の機関・方々のご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。（順不同）

櫻井和哉　株式会社ベイシア　清水建設株式会社

凡　例

- 1 拝図の座標北には、世界測地系（国家座標第IX系）を使用した。方位記号は座標北を示す。
- 2 等高線や断面図における水準値は、海拔標高を示す（単位：m）。
- 3 掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺率は、各拝図中にスケールで表示した。
- 4 グリッドは、原点(X=37,300・Y=-67,400)より、西から東へX 0、X 1…、北から南へY 0、Y 1…と付した。
- 5 本書中のテフラの呼称は、下記のとおりである。

A s - A、A軽石：1783年（天明3年）に噴出した浅間Aテフラ。
A s - B、B軽石：1108年（天仁元年）に噴出した浅間Bテフラ。
H r - F A、F A：6世紀初頭に噴出した榛名二ツ岳洗川テフラ。
- 6 本書掲載第1図には、国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」「宇都宮」、第2図に同院発行の1/25,000地勢図「前橋」「高崎」、第3図には「前橋市都市計画図」1/2,500を一部加工して使用した。
- 7 表紙には、『昭和61年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。

目 次

例言		III 調査の方法と経過	4
凡例		1 調査の方法	4
目次		2 調査の経過	5
挿図目次		IV 遺跡の概要	6
表目次		1 遺構・遺物の概要	6
写真図版目次		2 基本層序	6
I 調査に至る経緯	1	V 検出遺構	7
II 遺跡の位置と環境	1	1 A区	7
1 地理的環境	1	2 B区	21
2 歴史的環境	2	3 C区	24
		VI まとめ	33

写真図版

抄録

挿図目次

第1図 遺跡の位置	1	第11図 A区溝跡(2)	16
第2図 周辺の遺跡	3	第12図 A区土坑	19
第3図 調査地位置図	4	第13図 B区全体図及び断面図	22
第4図 調査区全体図	5	第14図 B区水田跡水口	23
第5図 基本層序	6	第15図 B区溝跡	24
第6図 A区全体図及び断面図(1)	8	第16図 C区全体図及び断面図	25
第7図 A区全体図及び断面図(2)	9	第17図 C区溝跡	27
第8図 A区全体図及び断面図(3)	10	第18図 C区土坑	29
第9図 A区2号南北・1号東西大畦交差部	11	第19図 条理型区画推定図	33
第10図 A区溝跡(1)	13		

表 目 次

第1表 周辺遺跡検出遺構	2	第3表 溝跡一覧	31
第2表 水田区画計測表	30	第4表 土坑一覧	32

写真図版目次

巻頭写真

A 区 2号南北・1号東西大畦畔	P L. 6
A 区 2号南北・1号東西大畦畔 交差部	A 区東端部水田区画 31 ~ 43
P L. 1	2号南北大畦畔・W-19号溝
調査地より浅間山方向を望む	2号南北大畦畔・W-19号溝
調査区全景	2号南北・1号東西大畦畔
A 区	2号南北・1号東西大畦畔 交差部
P L. 2	P L. 7
A 区西半部	2号南北・1号東西大畦畔 交差部
A 区東半部	2号南北大畦畔・W-19号溝 土層断面
P L. 3	2号南北大畦畔・W-19号溝 土層断面
A 区西端部水田区画 1 ~ 9	東端部水田区画 36 ~ 43
水田区画 1・3間 畦畔土層断面	水田区画 39・42間 畦畔土層断面
1号南北大畦畔	W-1~3号溝
1号南北大畦畔	W-1・2号溝 土層断面
1号南北大畦畔 土層断面	W-3号溝 土層断面
P L. 4	P L. 8
水田区画 12 ~ 28	W-4・5号溝
水田区画 12 ~ 21、W-11号溝、1号ピット列	W-4号溝、W-5号溝 土層断面
水田区画 14・15間 畦畔土層断面	W-6~10号溝
水田区画 12 ~ 27	W-8号溝、W-9号溝 土層断面
水田区画 23	W-11溝 土層断面
P L. 5	W-12~14号溝
水田区画 18・21間 畦畔土層断面	W-12号溝・13号溝・14号溝 土層断面
水田区画 26 耕作痕	W-15号溝
水田区画 21・28間 畦畔土層断面	
水田区画 28 南西隅部 塚地	
A区中央付近	

P L. 9

- W - 15 号溝 土層断面
- W - 16 号溝、W - 17・18 号溝・擾乱大溝
- W - 16 号溝 土層断面
- W - 17・18 号溝 土層断面
- W - 20 号溝
- W - 20 号溝 土層断面
- D - 1 号土坑
- D - 2 号土坑

P L. 10

- D - 3 号土坑
- D - 4 号土坑
- D - 5 号土坑
- D - 6 号土坑、D - 7 号土坑
- D - 8 号土坑
- D - 9 号土坑
- D - 10 号土坑
- D - 11 号土坑

P L. 11

- D - 12 号土坑
- D - 13 号土坑
- D - 14 号土坑
- D - 15 号土坑
- D - 16 号土坑
- D - 17 号土坑
- D - 18 号土坑
- D - 19 号土坑

B 区

P L. 12

- B区東半部
- B区西半部
- 水田区画 1・2 間 畦畔
- B区東半部
- 水田区画 5・6 間 水口

P L. 13

- 水田区画 3・4 間 畦畔土層断面
- W - 1 号溝
- W - 2 号溝
- W - 2 号溝 土層断面
- W - 3～6 号溝
- W - 3 号溝、W - 4 号溝
- W - 5 号溝
- W - 6 号溝

C 区

P L. 14

- C区全景
- C区全景

P L. 15

- 1号南北大畦畔
- 1号南北大畦畔、W - 4 号溝
- 水田区画 7・11 間 水口
- 水田区画 12・13 間 水口

- 水田区画 4・7 間 畦畔土層断面

- W - 1・2 号溝
- W - 1 号溝 土層断面
- W - 2 号溝 土層断面

P L. 16

- W - 3・5～7 号溝
- W - 3 号溝 土層断面
- W - 3・6・7 号溝 土層断面
- W - 4 号溝 土層断面

- D - 1 号土坑

- D - 1 号土坑 土層断面
- D - 2 号土坑
- D - 3 号土坑

P L. 17

- D - 3 号土坑 土層断面
- D - 4 号土坑
- D - 5 号土坑
- D - 6 号土坑
- D - 6 号土坑 土層断面
- D - 7 号土坑
- D - 7 号土坑 土層断面
- D - 8 号土坑

I 調査に至る経緯

平成25年6月5日付けで前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合より埋蔵文化財確認調査依頼が前橋市教育委員会に提出され、同年7月3日～8月30日にかけて試掘調査を実施し、浅間B軽石で覆われた水田跡を確認した。試掘調査に際しては、開発面積が広大であるため原則20mピッチでトレーニングを設定し、重機により遺構確認を行なった。なお、試掘面積は8,659m²であった。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、設計変更是不可能であるため発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成25年11月12日付けで前橋市南部拠点西地区土地区画整理組合、民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査実施に関する協定書が締結され、同年11月18日から現地調査が開始された。

なお、遺跡名称「南部拠点地区遺跡群No.8」の「南部拠点地区」は区画整理事業名を採用し、数字の「No.8」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

本遺跡は、前橋市域の南東部「前橋台地」の後背湿地に立地する。前橋台地は、約2万年前の浅間山噴火による山体崩壊を起源とする「前橋泥流」が、利根川によって赤城・榛名山間から関東平野に流出する部分に堆積して形成された扇状地性台地である。台地上にはその後の中小河川の浸食によって、北西から南東方向に多くの自然堤防・後背湿地が形成されている。台地の東辺は、利根川の旧流路である広瀬川低地帯の段丘崖によって囲まれている。この崖上には高燥な地形が帶状に連なり、西方には高崎市・玉村町にかけて広大な水田地帯が広がっている。現在この水田域の中を、中世に流路が変流したと考えられる利根川が貫流しており、調査地は現在の利根川の左岸から200m前後に位置する。東方には前橋台地北部の湿地帯に源をもち、古墳時代から水田開発に利用されてきたと考えられている「端気川」が南流している。



第1図 遺跡の位置

2 歴史的環境

本遺跡周辺の前橋台地東半部では古墳時代以前の遺跡の立地は非常に少ない。ここでは遺跡数が急増する古墳時代以降の様相について記していく。

古墳時代前期には周辺の自然堤防や微高地上に多数の集落が立地してくる。また、低地部においても横手湯田遺跡などでは周溝状の配水施設を伴う住居跡が検出されている。前代までとこのように大きく様相が変わる背景として、台地上の小河川の利用や用排水路の開鑿などによる低地部の水田開発が考えられている。4世紀初めのA s - C層関連の水田跡は、II 遺跡で検出されている。また、徳丸住田II 遺跡では堰を伴った大規模な用水路が発見され、広範囲に及ぶ組織的な大開発が行われたと考えられている。さらに、朝倉工業団地遺跡群No.2では集落域の周辺とみられる部分で、この時期の烟跡が検出されている。

また、これらの水田開発を主導したとみられる首長層の墳墓が築かれた地として、台地の東辺に朝倉・広瀬古墳群が分布している。古墳前期に限っても、全長130mの東日本最大の前方後方墳である前橋八幡山古墳、129mの前方後円墳で三角縁神獣鏡などを出土した前橋天神山古墳が占地している。上記の水田域を生産基盤とした、当時の毛野地域を代表する勢力であったと考えられている。また、同時期の円墳である朝倉II号古墳のほか、公田東遺跡では前方後方形周溝墓も検出されている。

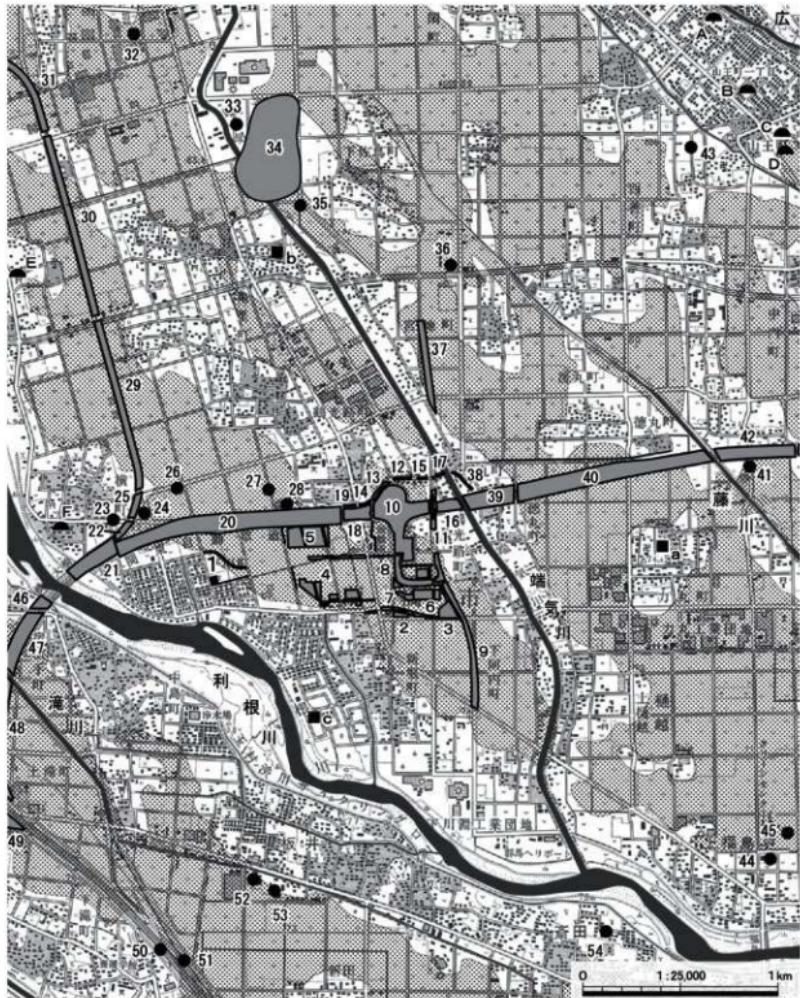
古墳時代中期から後期の集落遺跡は今のところ発見例がやや少ない。しかし、水田跡はH r - F AやH r - F P層に関わる水田跡が22遺跡で確認され、さらなる水田域の拡大が想定される。このため集落域は前期とは地点を替えて存在するものと考えられる。水田域の拡大に伴い集落域が移動している可能性がある。また朝倉・広瀬古墳群ではその後も7世紀代まで有力古墳の築造が続き、全体としては150基以上の古墳が存在したことが判明している。古墳時代全般を通じて県内最大級の古墳群といえよう。

奈良平安時代では、再び周辺の微高地上に広く集落が展開してくる。西善寺遺跡やその東方の中内村前遺跡などでは大規模集落が発見されている。水田城は周辺一帯でも条里制の施行が考えられ、さらに水田城を拡充するために集落域の再編が行われたと考えられる。平安時代末期のA s - B層直下の水田跡は周辺のほとんどどの遺跡で検出される状況で、その区画は条里区画を継承していることが判明している。

中近世については、本地域の大きな特色として環濠遺跡群の存在があげられる。南の玉村町にかけての一帯には、現在でも方形を基調とする濠をめぐらせた屋敷地や寺院などが散在している。前橋市域だけでも数十カ所に上り、さらに環濠の一部と考えられる溝跡が検出されている遺跡も数多い。周辺の宿阿内城址・力丸城址はこのような環濠屋敷が複合・発展した形態ととらえられ、那波氏一族に関連する室町・戦国期の城館址と考えられている。

第1表 周辺遺跡検出遺構

遺跡名・遺跡名子番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1



第2図 周辺の遺跡

III 調査の方法と経過

1 調査の方法

本遺跡地内はすでに前橋市教育委員会による試掘調査が実施されており、その調査成果と今回の開発事業の内容からA区からC区の調査区が決定された。調査対象地内にはA s - B層下の水田跡がほぼ全域に展開しているとみられ、調査区は区画整理事業の道路建設等の工事で遺跡に破壊が及ぶ部分である（第3図）。

主な調査対象はA s - B層下の水田跡であり、調査面積はA区、B区、C区で、合計6,365 m²であった。

調査はA区の西端部から着手し、A区東端部まで終了後C区を調査。最後にB区を西から東方向に調査した。

調査の方法は、表土からA s - B層の上部まではバック・ホーで掘削し、A s - B層の遺存しない部分についてはA s - B層の下にあたる層位まで掘削した。このため、A s - B層以下後に開削された溝跡などの遺構についてはすでに検出時に上部が失われたものが多いが、土層断面の観察などによりできる限り本来の掘り込み面の確認に努めた。重機掘削後は人力により遺構確認と遺構の検出にあたった。

遺構の精査後は写真撮影、測量図面等の記録を作成した。写真撮影は、35 mmモノクロフィルム及びリバーサルフィルムと、デジタルカメラで撮影し、全体の遺構検出終了後に空中写真撮影を実施した。図面測量は、平面図はトータルステーションを用いて作成し、断面図は手実測で1/20縮尺で実施した。

検出された遺構は調査区別に、時代などに関わらず検出順に種類毎に記号番号を付した。記号は、Wは溝跡、Dは土坑を表している。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。



第3図 調査位置図

2 調査の経過

平成 25 年 11 月 18 日より調査に着手。まず 21 日までに、基準杭や調査区の設定、器材の搬入、現地事務所用プレハブ・トイレの設置などを行う。11 月 19 日からは重機による表土掘削を A 区の西端部から開始した。A 区東端部までの表土除去が終了したのは 29 日で、引き続き 12 月 2 日から C 区の表土掘削を開始した。C 区では排土の搬出のためクローラーダンプを併用し、9 日に作業を終了した。

この間、22 日からは作業員による遺構検出作業を A 区の西端部から開始した。

B 区の表土掘削は 12 月 12 日から開始し、16 日に終了した。

A 区では遺構検出作業を順次東方へ進め、A 区東端まで終了したのは 12 月 26 日であった。27 日からは C 区の遺構検出作業を開始した。平成 26 年 1 月 9 日には C 区と併せて B 区も遺構検出を開始し、両区とも 14 日に作業を終了した。

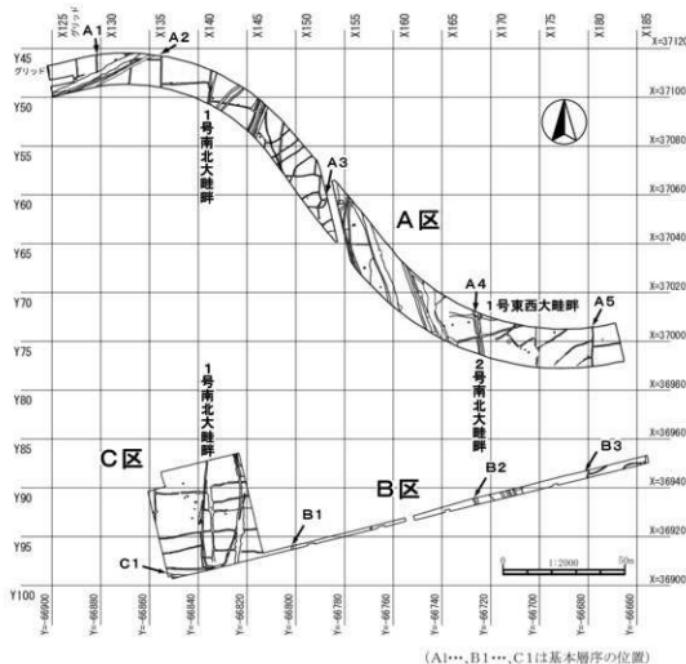
15 日・16 日は A 区の補足調査を実施し、16 日から 21 日にかけては空中写真撮影の準備のため、調査区内の防水シートの撤去と全体の清掃作業を実施し、22 日にラジコンヘリによる空中写真撮影を実施した。

この間、1 月 6・7 日、17 ~ 21 日には測量業務を実施した。

23 日は水田面の補足調査のほか、器材の撤収、24・25 日は器材の撤収と測量業務を実施した。

27 日には現場事務所のプレハブ・トイレを解体・撤去し、現地の作業をすべて終了した。

整理・報告書作成業務は、平成 26 年 2 月から 3 月にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。



(A1)…, B1)…, C1)は基本層序の位置

第 4 図 調査区全体図

IV 遺跡の概要

1 遺構・遺物の概要

検出された遺構は、A区では平安時代末のA s-B層直下の水田跡及び溝跡2条、ピット列1列、平安末から中世の溝跡7条、土坑11基、中世以降のA s-B混土層の溝跡7条、土坑8基、近世以降の溝跡4条で、B区では平安時代末期のA s-B層直下の水田跡、中世以降の溝跡6条、C区では、平安時代末の水田跡及び土坑1基、中世以降の溝跡7条、土坑7基であった。

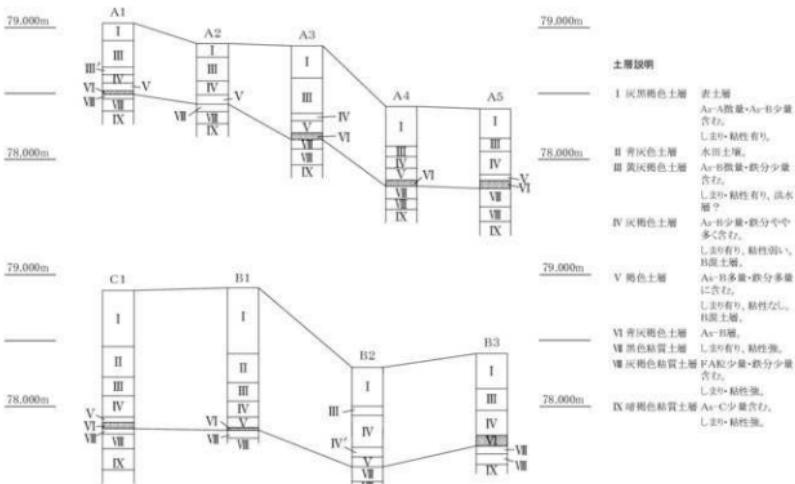
A s-B層直下の水田跡は、すでにA s-B層が遺存しなかったA区W-15号溝から東方の現代の擾乱大溝の間では検出されず⁴、また、B区でも東端部付近以外ではA s-B層の依存状況が悪く水田跡は検出されなかつた。A区の部分は後世の大規模な削平がVII層の上面にまでおよんでいたことによるものであることや、A s-B層下水田跡の床土となっているVII層の面は調査区の全体に堆積が確認できることから、本来は全面にA s-B層下の水田跡が展開していたと考えられる。

遺物は後世の溝跡を中心に、土師器や須恵器、陶器などの小破片が少量出土したのみで、本書に掲載するものはなかつた。

2 基本層序

調査地全体の現地地形は、A区の西端部付近が高く、南東方向にゆるやかに傾斜している。B区東端との高低差は70cm強ほどである。C区からB区西半部の現地表面はA区の西端部とさほど高低差のない畠地として利用されていたが、表土層の上部には過去の圃場整備によるとみられる厚い客土層が存在しており、本来はA区の西端部より40cmほど低く、他と同様に水田であったと考えられる。

II層は、このC区からB区西半部にのみ残存しており、圃場整備の際に削平されずに残ったものと考えられる。V層はB区東端付近では認められず、VI層のA s-B一次堆積層は、B区中央付近の調査区内で最も低い場所や、逆に高いA区西半の一部では残存しなかつた。VII層以下の土層は調査区内全域で認められた。



第5図 基本層序

V 検出遺構

1 A 区

A s - B 層 (VI層) は、X 142 から 145 グリッド付近の調査区北辺部では層位としては認められず、VII層上面の細かな凹凸の内部に残存する程度であった。またW-15 号溝の西側からW-17・18 号溝にかけての間 (X 156 ~ X 164 グリッド) は、VII層まで及ぶ比較的新しい時期の雑壟状の造成が行われており、A s - B 層はすでに削平されていた。そのほかの部分では全域に A s - B 層が確認され、下部から水田跡が検出されている。以下、中・近世のものも含めて種類、遺構番号順に記載する。

1 A s - B 層下水田跡 (第6~9図、P.L. 3~7)

位置：調査区のほぼ全体にかけて検出された。**重複**：水田跡と同時期の存在は、直接 A s - B 層に埋没していた W-9 号溝・19 号溝、1 号ビット列のみで、その他の検出された遺構はすべて後世のものである。

地形：北西から南東方向にゆるやかに傾斜する地形で、すでに A s - B 層が削平されているとみられる X 142 から 145 グリッド付近は、本来もう少し高い地形であったと考えられる。

畦畔：西半部の中央付近で 1 号南北大畦畔が検出された。検出長は 14 m で、わずかに屈曲している。上部は削平されて平坦になっており、高さは 4 cm 程度と残存状態は良くなかった。幅も最大部で 1.14 m と、後世の掘削のためか全体に細目の状態であった。畦畔中央付近の西側、東西畦畔が取り付く部分の隅では部分的に細い溝状の壅みが認められている。畦畔の盛り土のための掘削跡とみられる。なお、後述する C 区では、この 1 号南北大畦畔に連続する大畦畔が検出されている。

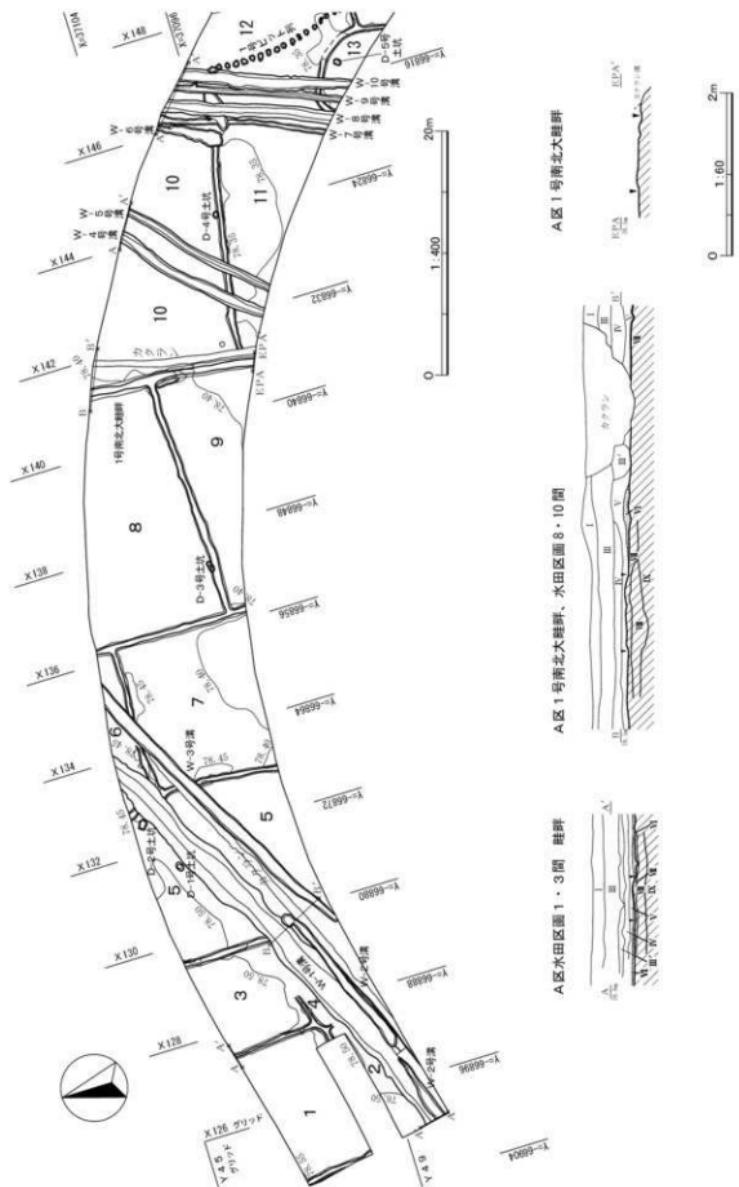
東半部の中央付近では、2 号南北大畦畔と 1 号東西大畦畔が交差する坪境交点が検出された。2 号南北大畦畔は中央付近を W-20 号溝で切られており、検出長は 18.5 m ほどで直線的であったが、走向は南北方向からやや西へ振れている。幅は最大部で 2.8 m ほどと良好に遺存していたが、高さについては最高部でも 4 cm ほどであった。畦畔の中央部には W-19 号溝が南北に継貫しており、A s - B 層で直接埋没していることから大畦畔に付随して存在したことが確認された。幅は 80cm、深さは 10cm ほどで、断面形は逆台形である。

これに交差する 1 号東西大畦畔は、交差部から東側は高さ 10cm ほどまで遺存しており良好であったが、交差部から西側に向かうにつれて高さがなくなっていた。検出長は 21 m で、幅は 1.1 ~ 1.9 m を計り、ほぼ東西方向の走向であった。

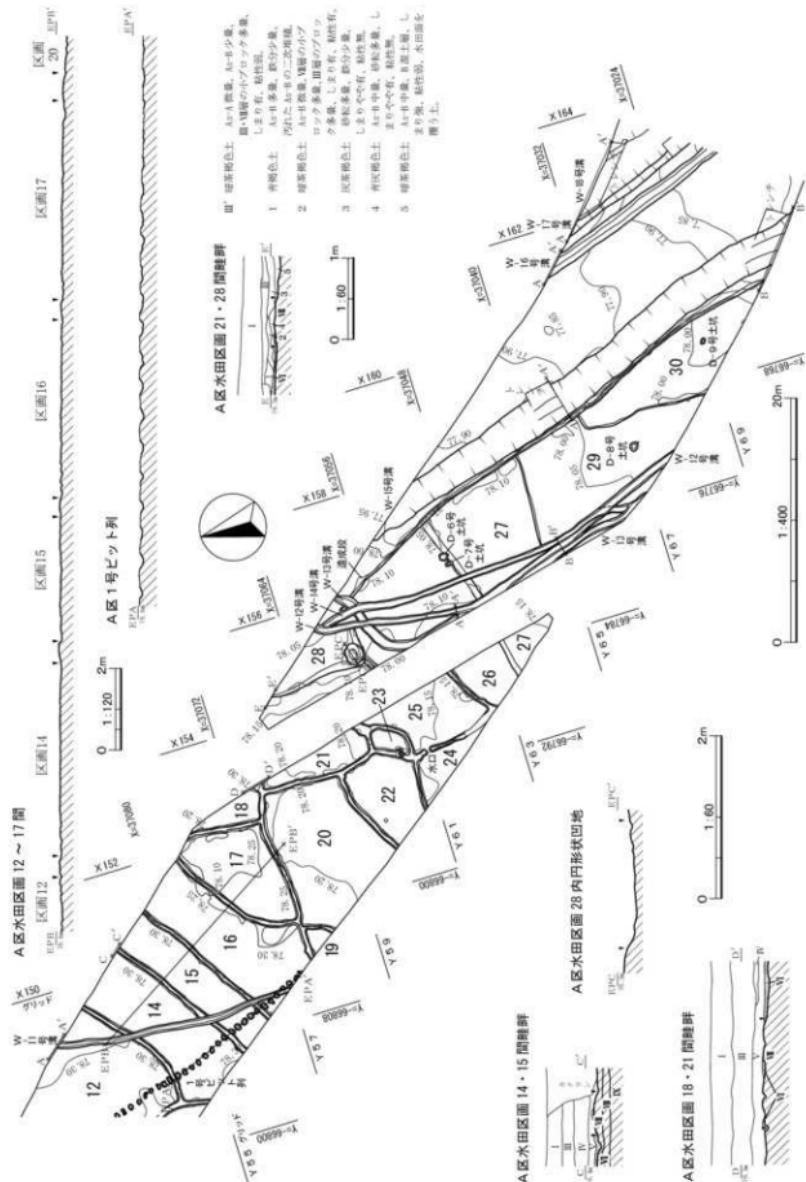
W-19 号溝は、この大畦畔の交差部分では低い堰状の土盛りで分断され、上流側にあたる北側は水溜めのように幅が広げられていた。この東側では東西大畦畔を切って北側から水口 A が続いている。直線的な走向からみて W-19 号溝からではなく、北側の上部の水田区画から続くものとみられた。区画 34 側の出水口には堰が据えられていた。北西の水田区画 32 からは、W-19 号溝の堰状部分の直下に向けて水口 B が接続されている状況が認められた。水田側には堰が据えられていた。さらにこの部分の反対側には、東の区画 34 から連続する水口 C が続いていた。水口の底面は、水田面や溝の底面からは 4cm ほど高い状況であった。

畦畔の盛り土は、他の小畦畔も含めすべて水田の床土と同じ VII 層の黒色粘質土で形成されていた。

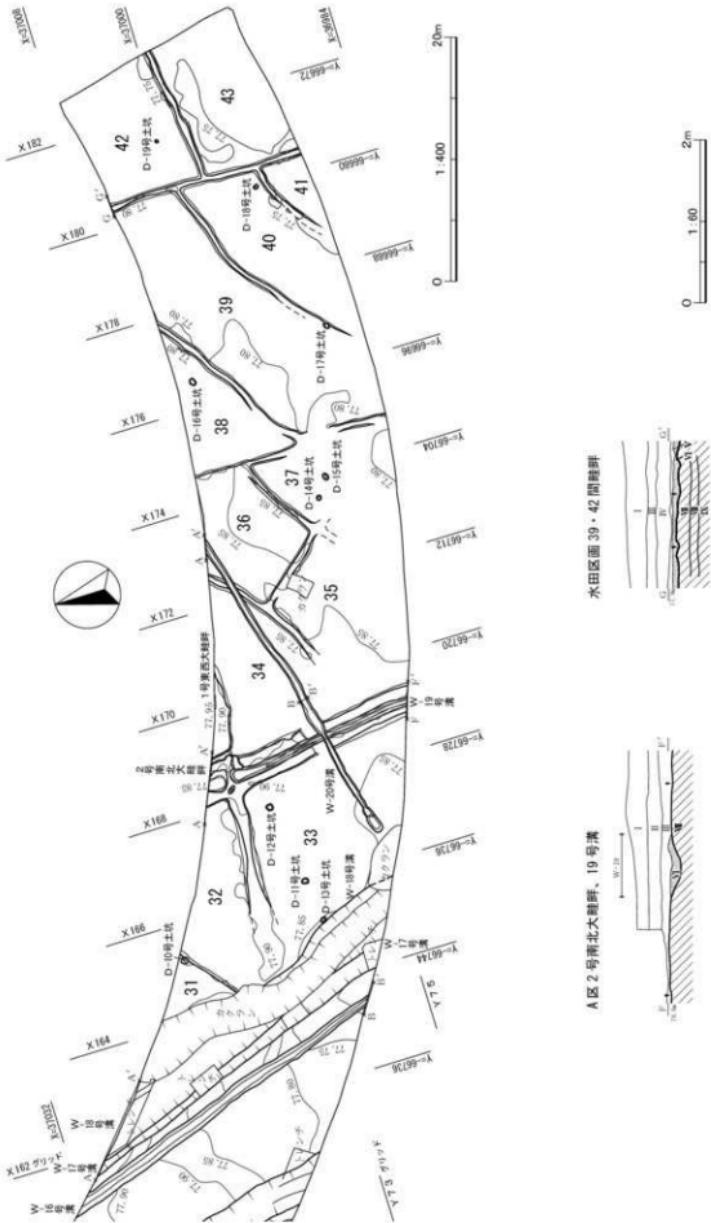
区画：43 区画が確認されたが、前述のようにすでに A s - B 層が削平されていた部分にも水田の存在が予想される。区画の形態は、調査区の形状も相俟つ全形を知り得るものは極小の区画 23 のみであった。比較的広い区画であったと想定されるのは調査区西側の 8・9・10・11 の区画で、調査区内の高所側に位置する。畦畔は東西・南北方向を指向し、長方形の整った広い区画であるとみられる。これに対し、調査区中央付近の区画 12・13 から南東側については、非常に不整形な区画が連続していた。14 ~ 16 の区画は、東西の畦畔が並行に斜行しており、同様の形態は調査区の東端部付近の 36 ~ 41 の区画にも認められた。最も変則的な区画は 17 から 26 付近で、X



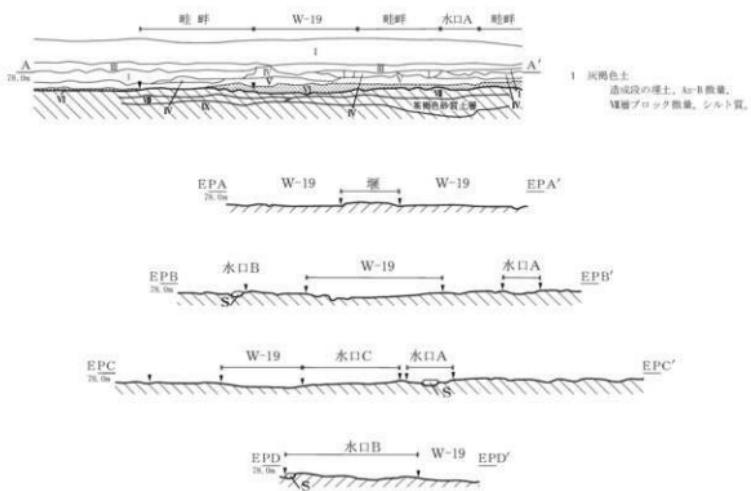
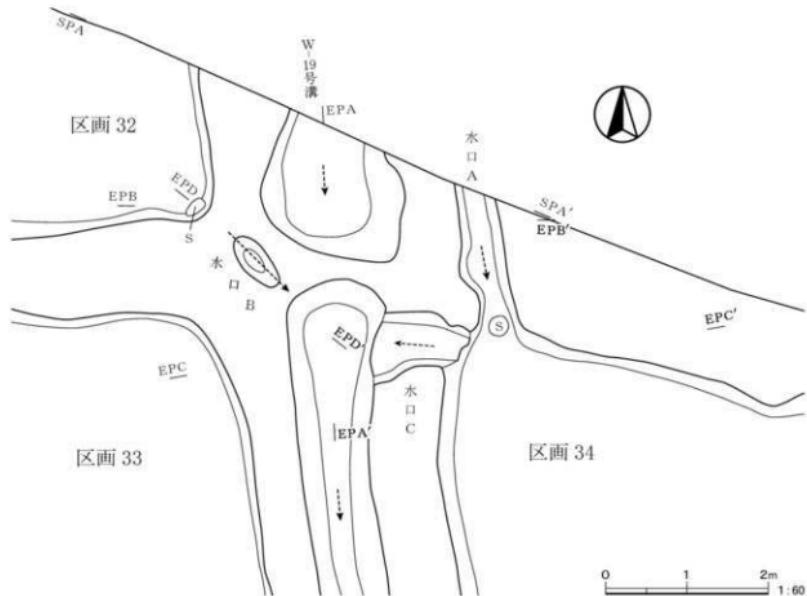
第6図 A区全体図及び断面図（1）



第7図 A区全体図及び断面図（2）



第8図 A区全体图及び断面图(3)



第9図 A区2号南北・1号東西大畔交差部

字状の畦畔や三角形状の区画などが連続していた。このうち区画23は最小の区画で、崩れた菱形状の形態で面積も3.6m²ほどの極小区画という特異なものであった。

その他、区画26の水田面では鉗状の道具による耕起痕が整然と並んだ状況で検出された。

水口：2号南北大畦畔と1号東西大畦畔の交差部で検出された以外は、区画24・25間の1カ所で検出されたのみであった。25から24への配水である。

2 溝跡

W-1号溝跡（第6・10図、P.L. 7）

位置：調査区西端部で検出された。**重複**：W-2号溝に切られ、B下水田を切っている。**規模・形態**：走向は北東から南西で、長さ38mほどが検出された。上幅は1.2～2.6mと幅があり、深さは10～15cmほどと浅い。

断面形は皿状で、底面は細かな凹凸が顕著であった。**埋没状態**：埋土にB軽石を多量に含み、非常に硬く締まっていた。**時期**：埋土の状況から中世とみられる。

W-2号溝跡（第6・10図、P.L. 7）

位置：調査区西端部で、W-1号溝と平行して検出された。**重複**：B下水田、W-1号溝を切っている。**規模・形態**：北東から南西方向の走向で、両端は調査区外へ続く。22mほど長さにわたり検出された。上幅55

～90cm、深さは西端部の土層断面で30cmほどで、断面形は逆台形を呈する。底面は耕具痕とみられる凹凸が目立った。東端の部分は径約1mの円形状に広がっていた。**埋没状態**：埋土はB軽石にⅦ層の大ブロックが多量に混入しており、自然埋没ではなく人為的に埋め戻されているとみられた。B軽石を集積して廃棄したものか。**遺物**：混入品とみられる土師器の小片が少量出土。**時期**：A.s-Bの降下後間もない時期と考えられ、平安末から中世とみられる。

W-3号溝跡（第6・10図、P.L. 7）

位置：調査区西端部で、W-1号・2号溝と並行して検出された。**重複**：B下水田を切っている。**規模・形態**：北東から南西方向に27mの長さが検出された。東端側は調査区外へ続いている。上幅50cm～1.2m、深さ

20～30cmほどを計り、断面形は逆台形を呈する。底面には凹凸が目立った。**埋没状態**：B軽石中にⅦ層のブロックが多量に入り、W-2号溝と同様の埋土の状況であった。やはりB軽石の廃棄溝とみられる。**時期**：平安末から中世とみられる。

W-4号溝跡（第6・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半の中央付近で、W-5号溝と平行して検出された。**重複**：B下水田を切っている。**規模・形態**：北東から南西方向へやや東に曲線しながら走る。両端とも調査区外へ続いている。長さ13mが検出され、規模は上幅90cm前後、最深部で20cmであった。断面形は、皿状である。**埋没状態**：埋土の上部にはB軽石を多く含み、中位には流砂層が認められた。また底面には鉄分の沈着も顕著であったことから水路跡と考えられる。

時期：埋土の状況から中世とみられる。

W-5号溝跡（第6・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半の中央付近で、W-4号溝の東側に平行して検出された。**重複**：B下水田を切っている。

規模・形態：北東から南西方向へ、13mの長さが検出された。両端部は調査区外へ続く。上幅は70cm前後、深さは30cmほどで、断面形はU字状である。**埋没状態**：埋土中にはB軽石を多量に含んでいた。**時期**：A.s

A区W-1～3号溝



W-1号溝 (A-A')

- 1 黒褐色土 A-s-B多量。しまり強く粘性無。A-s-B二次堆積土層。
W-2号溝 (A-A')
- 2 増茶褐色土 A-s-B多量、V層のブロック多量に含む。しまり・粘性弱。
 - 3 青褐色土 A-s-B多量、V層のブロック中量含む。しまり・粘性弱。



W-1号溝 (B-B')

- 1 黒褐色土 A-s-B多量。しまり強く粘性無。A-s-B二次堆積土層。
W-2号溝 (B-B')
- 2 増茶褐色土 A-s-B多量、V層のブロック多量に含む。しまり・粘性弱。
 - 3 青褐色土 FA軽石と鉄分を微量に含む。

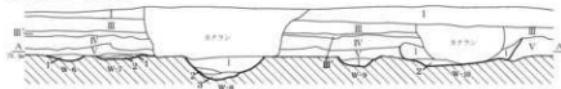
A区W-4、W-5号溝



W-4号溝

- 1 黒褐色土 A-s-B多量、FA軽石量、鉄分少量。しまり有、粘性弱。
2 茶褐色土 A-s-B中量、FA軽石量、V層の小ブロック多量。
しまりやや有、粘性やや弱。
3 灰褐色砂層 A-s-B微量、しまり弱、粘性無、透水層。
4 茶褐色土 A-s-B少量、FA軽石量、鉄分少量、しまりやや有、粘性強。
W-5号溝
- 1 増茶褐色土 A-s-B多量、鉄分中量。しまりやや弱、粘性無。
 - 2 灰褐色土 A-s-B多量、FA軽石量、鉄分少量、V層ブロック少量含む。

A区W-6～10号溝



W-8号溝

- 1 黒褐色土 A-s-B中量、FA軽石微量、V層のブロック少量。鉄分少量含む。しまり強、粘性弱。
2 青褐色砂層 A-s-B少量、V層ブロック微量。しまり・粘性無。
3 増灰褐色砂層 A-s-B中量、V層ブロック少量。しまり・粘性無。

W-6号溝

- 1 増茶褐色土 A-s-B多量、V層・礫層のブロック多量。しまり・粘性無。

W-7号溝

- 1 黒褐色土 A-s-B多量。しまり・粘性無。
- 2 灰褐色土 A-s-B多量、V層・礫層のブロック多量。

W-9号溝

- 1 A-s-B層 底面に小豆色のバニス。

W-10号溝

- 1 増茶褐色土 A-s-B中量、砂粒中量、鉄分少量。しまり強、粘性無。
2 茶褐色土 A-s-B中量、砂粒少量、鉄分微量。しまり強、粘性無。

A区W-11号溝



- 1 増茶褐色土 A-s-B多量、V層ブロック多量。
カクラン 黒褐色土 A-s-B多量、V層ブロック多量。

A区W-12、13、14号溝



W-12号溝

- 1 増茶褐色土 A-s-B多量、V層の小ブロック中量。しまり・粘性無。
2 増茶褐色土 A-s-B中量、V層の大ブロック多量。しまり無、粘性弱。

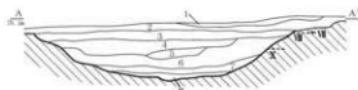
W-13号溝

- 1 増茶褐色土 A-s-B多量、V層・礫層の大ブロック多量。しまりやや有、粘性弱。

W-14号溝

- 1 増茶褐色土 矿層・礫層の大ブロックの間にA-s-Bが中量混じる。しまり無、粘性弱。

A区W-15号溝



0 1 2m 1:60

造成段埋土

- 1 茶褐色土 鉄分多量、しまり無、粘性無。シルト層。
A-s-B微量。
- 2 明褐色土 A-s-B微量、砂粒中量。しまり有、粘性やや有。

W-15号溝

- 3 増茶褐色土 A-s-B少量、砂粒中量、鉄分微量、II層の粘土を多く含む。しまり・粘性やや有。
A-s-B微量、砂粒中量、鉄分少量、V層の大ブロックを多く含む。
- 4 增褐色土 A-s-B少量、砂粒中量、V層の大ブロックを多く含む。しまり・粘性やや有。
- 5 増茶褐色土 A-s-B少量、砂粒中量、V層の大ブロックを多量に含む。しまりやや有、粘性有。
- 6 黒褐色土 A-s-B少量、砂粒中量、鉄分少量、V層のブロックを多く含む。しまり・粘性やや有。
- 7 増茶褐色土 砂粒多量、しまりやや有、粘性無。
- 8 青褐色砂層 しまりやや有、粘性無。透水層。

第10図 A区溝跡 (1)

- Bの降下後間もない時期と考えられ、平安末から中世とみられる。

W-6号溝跡（第6・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半の中央付近で、W-7～10号溝と平行して検出された。 重複：B下水田面を切っている。

規模・形態：北北東から南南西方向に走る。北側は調査区外へと続き、検出長は5.5mである。上幅50cm～1.5m、深さは10cmほどで、断面形は皿状である。底面は起伏が目立った。 埋没状態：B軽石中にVII層・VI層のブロックを多量に含む埋土で、自然埋没とは考えられなかった。B軽石の廐棄溝とみられる。 時期：埋土の状況から、平安末から中世にかけてとみられる。

W-7号溝跡（第6・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半の中央付近で、W-6・8～10号溝と平行して検出された。 重複：B下水田面を切っている。

規模・形態：北北東から南南西方向にやや屈曲しながら走り、長さ13.5mが検出された。両端は調査区外へ続いている。上幅は35～80cm、深さ10cm弱ほどで、断面形は皿状である。底面は凹凸が目立った。 埋没状態：W-6号溝と同様の埋土で、B軽石の廐棄溝とみられる。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

W-8号溝跡（第6・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半の中央付近で、W-6・7・9・10号溝と平行して検出された。 重複：B下水田面を切っている。

規模・形態：北北東から南南西方向に、長さ13.5mが検出された。両端は調査区外へ続いている。上幅1.1m、深さ20cm前後を計り、U字状の断面形である。 埋没状態：埋土中にB軽石をやや多く含んでおり、埋土下部には流砂層の堆積が見られた。水路跡。 遺物：混入とみられる土師器小片が数点出土。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

W-9号溝跡（第6・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半の中央付近で、W-6～8、10号溝と平行して検出された。 重複：なし。 規模・形態：

北北東から南南西方向へ直線的に、長さ13.5mまで検出された。両端は調査区外へ続いている。上幅50cm、深さ10cm前後で、断面形はU字状である。 埋没状態：A s-Bの降下で直接埋没しており、底面には水田面と同様に小豆色の灰層が認められた。 遺物：混入とみられる土師器の小片が出土。 時期：平安末。

W-10号溝跡（第6・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半の中央付近で、W-6～9号溝と平行して検出された。 重複：B下水田面、1号ビット列を

切っている。 規模・形態：北北東から南南西方向にやや屈曲しながら走り、長さ14mが検出された。両端は調査区外へ続いている。北端部の土層断面では、上幅1.5m、深さ30cm以上の規模で、断面形は箱形を呈する。

埋没状態：埋土中にはB軽石を中量含むほか砂粒も中量含み、水路跡とみられる。 時期：埋土の状況から中世

とみられる。

W-11号溝跡（第7・10図、P.L. 8）

位置：調査区西半部の東側で検出された。 重複：B下水田面、1号ビット列を切っている。 規模・形態：北

から南方向の走向で、東へやや湾曲している。約20mの長さで検出され、両端は調査区外へ続いている。上幅60cm、最深部で10cmほどの規模で、断面形は皿状である。 埋没状態：埋土はB軽石・VII層のブロックを多量に含む。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

W-12号溝跡（第7・10図、PL.8）

位置：調査区中央付近で検出された。重複：B下水田・W-13号溝を切り、W-14号溝に切られている。規模・形態：北から南方向に走り、途中でやや東方向に走向を変えている。両端は調査区外へ続いている。検出長は44mであった。直線的な形態で、上幅50cm前後、深さ15cmほど、断面形は逆台形を呈する。底面には凹凸が目立つ。埋没状態：B軽石を多量に含み、VII層の大ブロックも多量に含む。掘削後まもなく埋め戻されたような状況である。時期：埋土の状況から、中世とみられる。

W-13号溝跡（第7・10図、PL.8）

位置：調査区中央付近で検出された。重複：B下水田を切り、W-12号・14号溝に切られている。規模・形態：北東から南西方向に走り、途中で北西から南東方向へ屈曲している。検出長は31mほどで、両端は調査区外へ続いている。上幅は50～90cm、深さは10cm弱ほどで、断面形は逆台形で、底面は凹凸が目立つ。埋没状態：埋土中には多量のB軽石とVII層・VIII層の大ブロックを含み、人為的に埋め戻された状況である。時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

W-14号溝跡（第7・10図、PL.8）

位置：調査区中央付近で検出された。重複：B下水田面とW-12号・14号溝を切っている。規模・形態：W-12号溝との重複部分から始まり、北から南に走るが、屈曲が目立つ。南端は調査区外へ延びており、検出長は直線で32mである。上幅約50cm、深さは10cm前後で、断面形は逆台形である。底面は凹凸が目立つ。埋没状態：埋土は、VII層・VIII層のブロック中にB軽石を中量含み、やはり掘削後まもなく人為的に埋め戻されたような状況である。時期：埋土の状況から、中世とみられる。

W-15号溝跡（第7・10・11図、PL.8・9）

位置：調査区中央から東付近で検出された。重複：後世の雑壇状の造成で上部を削平されている。規模・形態：北西から南東の走向で、約43mの長さが検出された。両端は調査区外へ延びている。上幅は2.5～3mほどで、深さは部分的な検出のみであったが60cmほどであった。断面形は幅広のU字状を呈する。走向や規模・形態からみてB区W-2号溝に連続する可能性が高い。埋没状態：最上層に微量のA軽石を含み、中位以下には流砂層の堆積が顕著であり水路跡と考えられた。遺物：土師器小片、灰釉陶器小片などが数点出土。時期：埋土の状況から近世以後とみられる。

W-16号溝跡（第8・11図、PL.9）

位置：調査区東半部の西側付近で検出された。重複：後世の雑壇状の造成で上部を削平されている。規模・形態：北西から南東へ直線的に走る。約30mが検出され、両端部は調査区外へ延びている。上幅は60cm～1.2m、深さは5～25cmほどで、南に向かって縮小していく。断面形は皿状で、底面には細かな凹凸が目立つ。走向や規模・形態からみてB区W-5号溝に連続する可能性が高い。埋没状態：埋土中にB軽石を少量含む。最下層には流砂層の堆積がみられ、水路跡とみられる。時期：埋土の状況から近世とみられる。

W-17号溝跡（第8・11図、PL.9）

位置：調査区東半部の西側付近で、W-16号溝と平行して検出された。重複：W-18号溝に切られている。規模・形態：北西から南東方向に直線的に走り、約29mの長さで検出された。規模は、W-18号溝に切られていることや、部分的な掘り下げのみであったために不明な点が多いが、南端部の深さは60cm以上であった。断面形は皿状で

あったとみられる。 埋没状態：B軽石を微量含む埋土で、最下層には流砂層の堆積が認められ、水路跡と考えられた。 遺物：内耳壙とみられる小破片のほか、陶器片、混入とみられる土師器片などが少量、さらに石礫1点が出土。 時期：埋土の状況から中世から近世とみられる。

W-18号溝跡（第8・11図、P.L. 9）

位置：調査区東半部の西側付近で検出された。 重複：W-17号溝を切っている。また18a号溝からd号溝に及ぶ少なくとも4回の掘り直しが行われているようである。 規模・形態：W-17号溝に沿って北西から南東方向に直線的に続き、31mの長さが検出された。部分的な掘り下げのみのため規模は不明な点が多いが、深さはc号、d号溝が65cmほどである。断面形は幅広のU字状を呈する。走向や規模・形態からみてB区W-6号溝に連続する可能性が高い。 埋没状態：埋土はa号からd号溝まで流砂層やシルト層が顕著で、大規模な水路跡であったとみられる。 時期：埋土の状況から、近世から近代頃とみられる。

W-19号溝跡（第8・9図、P.L. 6・7）

位置：調査区東半部の中央付近で検出された。2号南北大畦畔に伴う水路跡。 重複：W-20号溝に切られている。 規模・形態：南北方向にやや屈曲気味に走り、18mほどの長さが検出された。1号東西大畦畔との交差部では低い堰状の土堤が設けられ、その両側は水溜状に広がっている。上幅が80cm、深さは10cmほどで、断面形は逆台形である。 埋没状態：A s-Bの降下によって埋没している。 時期：平安末。

W-20号溝跡（第8・11図、P.L. 9）

位置：調査区東半部の中央付近で検出された。 重複：2号南北大畦畔やB下水田面を切っている。 規模・形態：東から西方向にほぼ直線的に走る。幅50cm前後、深さ10cmほどの規模で、28mの長さが検出された。東端部は調査区外へと続くが、西端部は長さ1.6m、幅85cmの水溜状の掘り込みとなって終わっている。断面形はU字状を呈し、底面は凹凸が目立つ。 埋没状態：埋土中にB軽石を多量に含む。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

3 土 坑

D-1号土坑（第12図、P.L. 9）

位置：調査区西半部の西側付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：やや不整な円形で、長径78cm、深さは24cmを計る。断面形は逆台形である。 埋没状態：B軽石を多量に含む埋土で、A s-Bの降下後あまり時間を経ない段階での掘削とみられる。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-2号土坑（第12図、P.L. 9）

位置：調査区西半部の西側付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：平面形は円形を基調としているとみられ、長径で85cm、深さは8cmほどである。断面形は皿状を呈し、底面は凹凸が目立つ。 埋没状態：埋土はB軽石を多量に含み、D-1号土坑と同様である。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-3号土坑（第12図、P.L. 10）

位置：調査区西半部の中央付近で検出された。 重複：B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態：東西に長い長円形で、長径は94cm、深さ14cmを計る。断面形は皿状で、底面は凹凸が目立つ。 埋没状態：B軽石を多量

に含む埋土で、D-1号土坑と同様である。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-4号土坑（第12図、P.L.10）

位置：調査区西半部の中央付近で検出された。 重複：B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態：やや東西に長い楕円形で、長径は60cm、深さ14cmを計る。断面形は皿状を呈する。 埋没状態：B軽石を多量に含む埋土で、D-1号土坑と同様にA-s-Bの降下後あまり間のない時期の掘削とみられる。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-5号土坑（第12図、P.L.10）

位置：調査区西半部の中央付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：不整形な長円形の平面で、南北の長辺が66cm、深さは8cmほどである。断面形は皿状で、底面はやや凹凸が見られた。

埋没状態：埋土はB軽石を微量含む灰褐色の粘質土であった。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D-6号土坑（第12図、P.L.10）

位置：調査区の中央で、D-7号土坑と近接して検出された。 重複：B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態：不整な長円形状で、南北の長辺で64cmを計る。深さは10cmほどで、箱形の断面形である。 埋没状態：B軽石を多量に含んだ埋土で、下層にはⅦ・Ⅷ層のブロックが多く見られた。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-7号土坑（第12図、P.L.10）

位置：調査区の中央で、D-6号土坑と近接して検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：不整形で、長辺部82cm、深さ9cmほどである。断面形は皿状で、底面はやや凹凸が見られた。 埋没状態：埋土はB軽石中にⅦ・Ⅷ層のブロックを含むものであった。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-8号土坑（第12図、P.L.10）

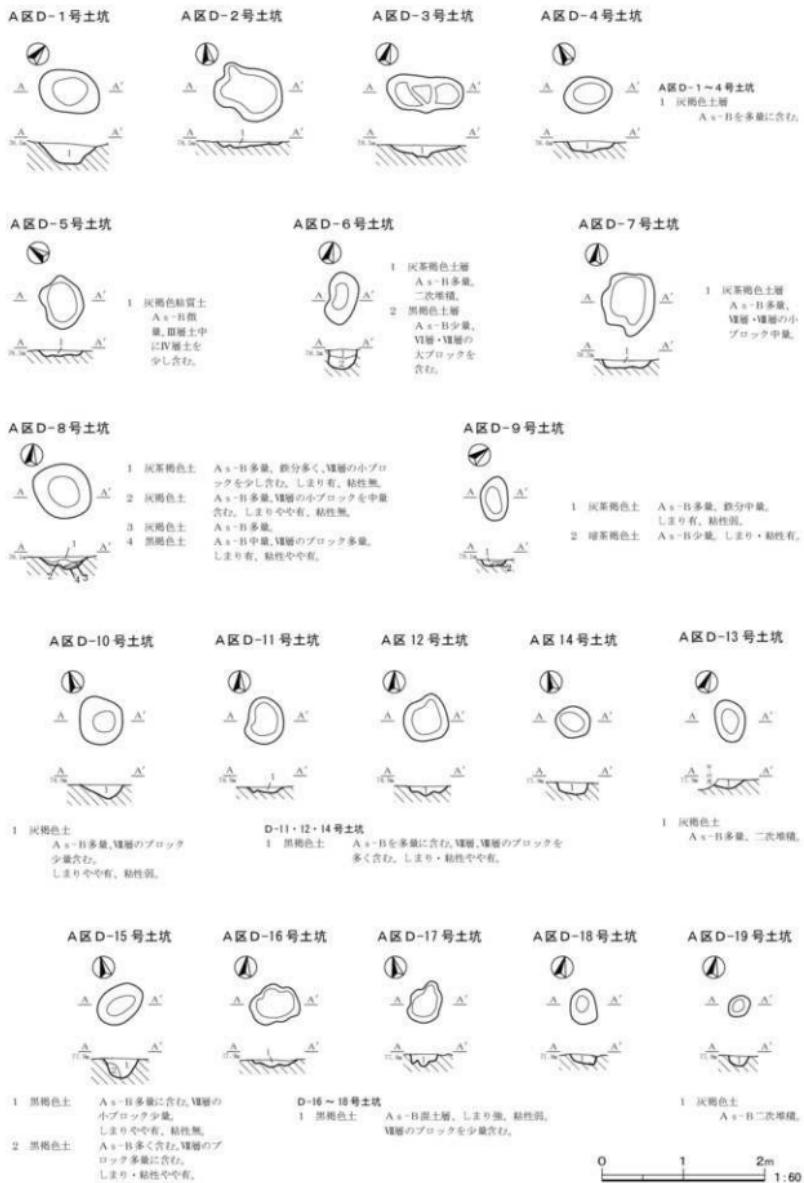
位置：調査区の中央部で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：やや不整形な楕円形で、長径76cm、深さ16cmほどを計る。断面形は皿状で、底面は凹凸が目立つ。 埋没状態：埋土中にはB軽石を多量に含み、Ⅶ層のブロックを中量含んでいた。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-9号土坑（第12図、P.L.10）

位置：調査区の中央部で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：長円形の平面で、長径55cm、深さは7cmほどである。断面形は皿状を呈する。 埋没状態：B軽石を多量に含む埋土であった。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D-10号土坑（第12図、P.L.10）

位置：調査区東半部の中央付近で検出された。 重複：B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態：平面形は不整形で、南北の長辺が60cm、深さは17cmほどである。断面形はU字状に近いが、全体に凹凸が顕著であった。 埋没状態：埋土は、B軽石を多量に、Ⅶ層のブロックを少量含む。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。



第12図 A区土坑

D -11号土坑（第12図、P L . 10）

位置：調査区東半部の中央付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：不整な円形状で、長径 57cm、深さは 8 cm ほどである。皿状の断面形で、全体に凹凸が目立つ。 埋没状態：埋土中には B 軽石と VII・VIII 層のブロックを多く含む。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D -12号土坑（第12図、P L . 11）

位置：調査区東半部の中央付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：不整形な平面形で、長辺が 57cm、深さは 10cm ほどを計る。皿状の断面形で、凹凸が顕著である。 埋没状態：埋土中には B 軽石と VII・VIII 層のブロックを多く含む。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D -13号土坑（第12図、P L . 11）

位置：調査区東半部の中央付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：長円形の平面形で、長径 52cm、深さは 11cm ほどを計る。U字状の断面形を呈する。 埋没状態：埋土中には多量の B 軽石が見られた。 時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

D -14号土坑（第12図、P L . 11）

位置：調査区の東端付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：円形で、径 42cm、深さ 14cm を計る。断面形は U 字状を呈する。 埋没状態：埋土中には B 軽石と VII・VIII 層のブロックを多く含んでいた。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D -15号土坑（第12図、P L . 11）

位置：調査区の東端付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：長円形の平面で、長径 60cm を計る。深さは 8 cm ほどで、U字状の断面形である。 埋没状態：B 軽石と VII 層のブロックを多く含む埋土であった。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D -16号土坑（第12図、P L . 11）

位置：調査区の東端付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：平面形は不整形で、長辺部が 62cm、深さは 8 cm ほどを計る。断面形は皿状で、全体に凹凸が顕著であった。 埋没状態：B 軽石を多く含み、VII 層のブロックを少量含む埋土であった。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D -17号土坑（第12図、P L . 11）

位置：調査区の東端付近で検出された。 重複：B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態：不整形な平面形で、長辺部 53cm を計る。深さは 16cm ほどで、断面箱形を呈し、全体に凹凸が顕著であった。 埋没状態：埋土は、B 軽石を多く含み、VII 層のブロックを少量含んでいた。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D -18号土坑（第12図、P L . 11）

位置：調査区の東端部で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：不整形な平面形で、長辺 42cm、深さ 10cm を計る。断面形は U 字状であるが、底面は凹凸がある。 埋没状態：B 軽石を多く含み、VII 層のブロックを少量含む埋土であった。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D-19号土坑（第12図、PL.11）

位置：調査区の東端部で検出された。重複：B下水田面を切っている。規模・形態：やや長円形で、長径30cm、深さ11cmを計る。断面形は箱形である。埋没状態：多量のB軽石によって埋没していた。時期：埋土の状況から、平安末から中世とみられる。

4 その他

1号ピット列（第6・7図、PL.4）

位置：調査区東半部の東側で検出された。重複：B下水田面や畦畔を切り、W-10号、11号溝に切られている。規模・形態：39基のピットが、直線距離で26mの長さで、北から南南東方向に緩く湾曲しながら列状に連続していた。ピット間の距離は20～40cm前後で、30cmほどが多い。個々のピットは不整形で、東西に長いものが多く、長辺部で40～60cmを計る。深さは深いものでも10cmほどであり、内面には鋤状の耕作具痕が残るものが多い。埋没状態：底面には小豆色の火山灰が付着し、A-s-Bの降下で直接埋没している。時期：平安末。

2 B区

A-s-B層（VI層）が残っていたのは、W-1号溝の西までと、X-157、158グリッド付近、さらにX-179グリッドから調査区東端部までの3ヵ所のみであった。これらの地点ではA-s-B以下の水田跡が検出された。そのほかの地点ではVII層の面で調査を行っているが、調査区中央から東寄りのW-2号から6号溝の周辺はVII層上面も後世の削平を受けているようであった。

1 A-s-B層下水田跡（第13・14図、PL.12・13）

位置：X-157、158グリッドと調査区の東端部で検出された。重複：なし。地形：すでにVII層上面まで削平されている地点が多かったが、原地形はB区の中央方向から南方に向かって緩やかな傾斜になっていたものと考えられる。畦畔：X-157グリッドでは1ヵ所のみ南北方向の畦畔が検出された。長さ1.4m、幅70～80cmで、高さは2cm程度であった。東端部では南北方向の畦畔2条とこの間を区画する東西方向の畦畔2条が検出された。東端部の南北畦畔は1m以上の幅があるとみられ、高さも5cmと高い。東西畦畔は北東から南西に斜行しており、畦畔自体の屈曲も大きかった。幅は70cm前後であった。区画5と6の間の東西畦畔では、南北畦畔に近い場所で水口が認められた。5から6への配水であった。なお、A区で検出された2号南北大畦畔の延長部については、後世のW-2号溝付近の位置に相当するとみられるが、前述のようにVII層上面もすでに削平されていて確認されなかった。区画：東端部では区画3から6までの4区画が検出された。区画4～6は東西畦畔が斜行していることから、A区の東端部付近の区画38～41のような変則的な区画であったと考えられる。

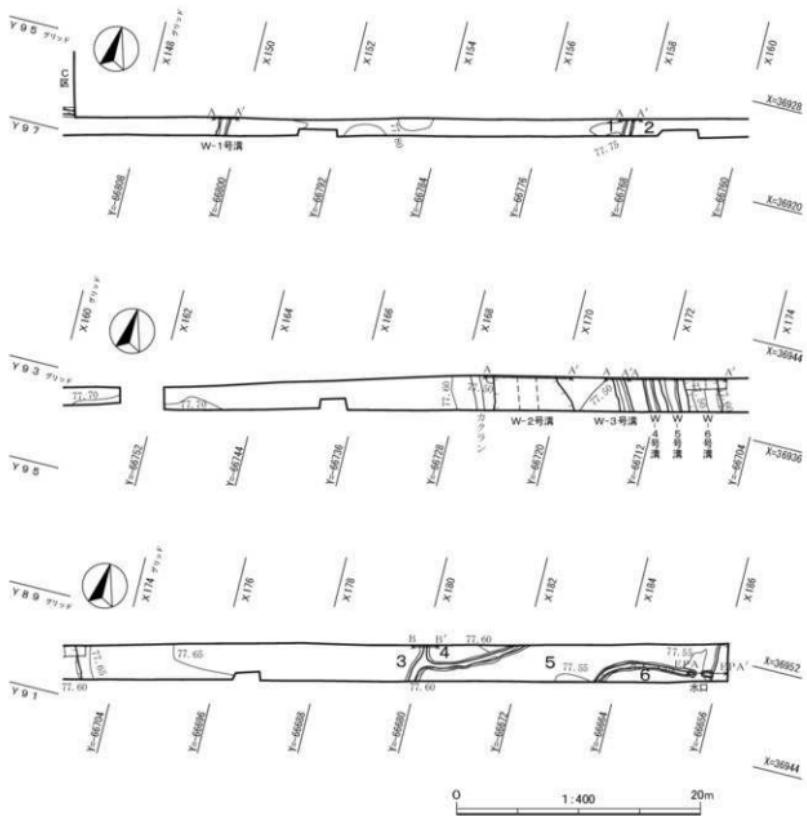
2 溝跡

W-1号溝跡（第13・15図、PL.13）

位置：調査区西辺で検出された。重複：なし。規模・形態：南北の走向で、1.6mの長さが検出された。土層断面でみると上幅は1.7m、深さは30cmほどに及ぶ。断面形は二段の皿状を呈し、底面には細かな凹凸が目立つ。埋没状態：B軽石を少し含み、砂粒をやや多く含む埋土であった。時期：埋土の状況から、中世から近世とみられる。

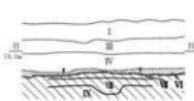
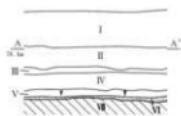
W-2号溝跡（第13・15図、PL.13）

位置：調査区中央からやや東で検出された。重複：なし。規模・形態：北西から南東の走向で、長さ2.8m



B区水田区画1・2間畦畔

B区水田区画3・4間畦畔



第13図 B区全体図及び断面図



第14図 B区水田跡水口

が確認された。上幅5mから6.7mと南に向けて幅が広くなる。掘り下げは部分的であったが、深さは北端で60cmほどであった。皿状の断面形を呈する。**埋没状態**：多量の流砂層が互層に認められ水路跡と考えられる。B軽石は微量含まれるのみであった。走向や規模・形態からみてA区W-15号溝の連続部分の可能性が高い。
遺物：混入品の土師器小片が少量出土。**時期**：埋土の状況から近世頃とみられる。

W-3号溝跡（第13・15図、PL.13）

位置：調査区中央から東寄りの部分で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：北西から南東方向に走る。検出長は2.8mで、規模は上幅1.3m、深さ30cmほどを計る。断面形は二段の逆台形状である。**埋没状態**：最下層に流砂層が堆積し、B軽石を少量含んでいる。**時期**：埋土の状況から、中世から近世とみられる。

W-4号溝跡（第13・15図、PL.13）

位置：調査区中央から東寄りの部分で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：北西から南東の走向で、2.8mの長さが検出された。上幅80cm、深さは25cmほどの規模である。断面形はU字状を呈する。**埋没状態**：埋土は砂粒を多く含み、B軽石は微量であった。**時期**：埋土の状況から、近世とみられる。

W-5号溝跡（第13・15図、PL.13）

位置：調査区中央から東寄りの部分で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：北西から南東方向に走る。検出長は2.8mで、上幅は1.4～1mと南に向かって狭く、深さは30cmほどであった。断面形は皿状を呈し、底面には多数の細かい凹凸が見られた。走向や規模・形態からみてA区W-16号溝と連続する可能性が高い。**埋没状態**：流砂層や多量の砂粒を含む埋土で、B軽石は微量認められた。水路跡である。**時期**：埋土の状況から、近世とみられる。

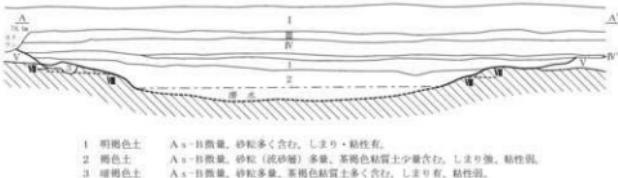
W-6号溝跡（第13・15図、PL.13）

位置：調査区中央から東寄りの部分で検出された。**重複**：なし。**規模・形態**：北西から南東の走向で、掘り下げは一部分のみであったが確認長は2.8mである。規模は、上端が2.7m、深さは土層断面で90cmほどで、断面は幅広のU字状であった。走向や規模・形態からみてA区W-18号溝の連続部分の可能性が高い。**埋没状態**：埋土は多量の流砂層の互層が主で、水路跡である。**遺物**：混入の土師器・陶器小片数点のほか、黒曜石の石核が1点出土。**時期**：埋土の状況から近世から近代とみられる。

B区W-1号溝



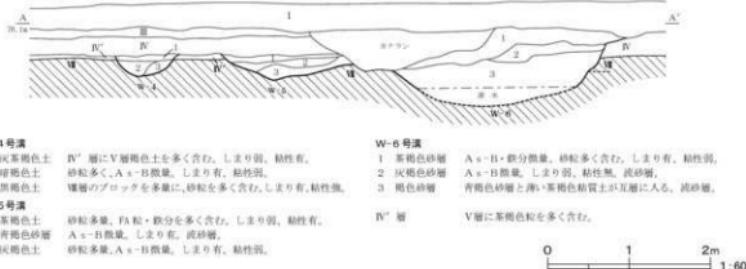
B区W-2号溝



B区W-3号溝



B区W-4～6号溝



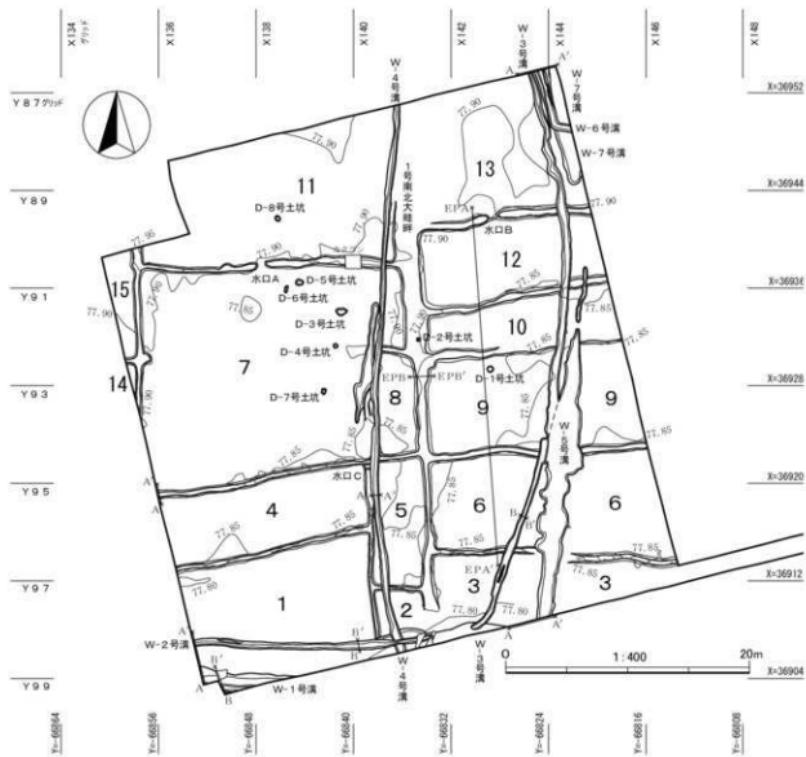
第15図 B区溝跡

3 C 区

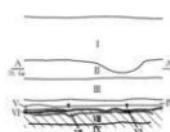
調査区の全体にA s-B層(VI層)の堆積が認められた。検出された遺構は、水田跡とD-8号土坑以外はすべてA s-B層下後期である。

1 A s-B層下水田跡 (第16図、PL. 14・15)

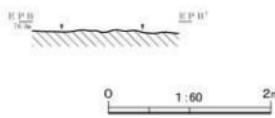
位置: 調査区のほぼ全体にかけて検出された。**重複:** D-8号土坑が水田跡と同時期とみられるが、他の遺構はすべて後世のものである。**地形:** 水田面のV層上面は南へわずかに傾斜している。調査区の北辺と南辺の標高差は10cmであった。**畦畔:** 調査区のほぼ中央に1号南北大畦畔が検出された。最大幅は2.4mほどであるが、高さは最大でも4cm強程度であった。南半部では西側から掘削を受け60cm程度の幅になっている部分も見られた。小畦畔のうち北東側の3条の東西畦畔については、ほとんど高さがなく幅も一定せず、屈曲気味の不整形な状況であった。畦畔の盛り土は、南北大畦畔の北半は茶色味の強い粘質土であったが、他はすべて水田面と同じV層の土壤であった。



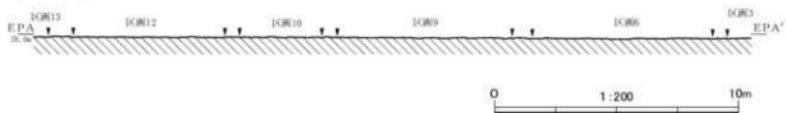
C区水田区画4・7間 離畔



C区1号南北大離畔、区画8・9間



C区水田区画3~13



第16図 C区全体図及C断面図

区画：15の区画が検出された。中央の1号南北大畦畔を軸に東西の畦畔が延び、長方形の区画が比較的整然と並んでいた。東西方向の畦畔は間隔が狭く、区画は東西に長い平面形が主である。南北大畦畔南半の西側に連なる小区画は南北方向に長い区画で、大畦畔を掘り込んでいる様子が認められた。後から便宜的に設定された少区画とみられる。面積は小区画の5と8が全形が知られ、5が41.7 m²、8が27.4 m²である。区画7についてもほぼ全体が想定でき、325 m²ほどと今回の調査で検出された全区画の中で最大であった。区画9・10・12の水田面については、他の区画とは異なり表面の凹凸が非常に顕著であった。**水口**：区画7と11の間の東西畦畔の中央部（水口A）と、区画12と13の間の東西畦畔（水口B）、区画4と5の間の南北畦畔の北端部（水口C）で検出された。水口AとBは北から南の区画への流れで、Cは区画5から4の方向とみられる。

2 溝 跡

W-1号溝跡（第16・17図、P.L.15）

位置：調査区南西隅で検出された。**重複**：土層断面の観察から、a・b・c・d号と4回の掘り直しが認められた。平面的にはc号、d号溝が検出されたのみである。**規模・形態**：いずれも東西方の走向である。c号溝は4mほどの検出長で、上幅55cm、深さが42cmほど、断面形はU字状であった。d号溝は検出長7.8mほどであったが、c号溝との重複や調査区の関係から明確な規模は不明である。上幅が1.4m以上で、深さは20cm強であったとみられる。断面は皿状である。**埋没状態**：埋土は、c号溝は砂粒や埴層のブロックを少量含んでおり、d号溝はB軽石を少量含み流砂層の堆積から、水路とみられる。**遺物**：混入品の土師器の小片が数点出土。**時期**：埋土の状況から、近世とみられる。

W-2号溝跡（第16・17図、P.L.15）

位置：調査区南辺で検出された。**重複**：B下水田面やW-4号溝を切っている。**規模・形態**：東西方向に走り、西端は調査区外へ続く。19.2mほどの長さが検出された。規模は西端の土層観察で上幅約1m、深さ50cm・深さ35cmほどあったことが知られた。断面はU字状である。**埋没状態**：B軽石は微量含む程度で、砂粒やシルトの多い埋土であった。水路とみられる。**時期**：埋土の状況から、近世とみられる。

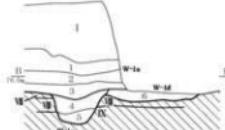
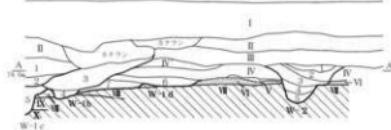
W-3号溝跡（第16・17図、P.L.16）

位置：調査区東辺部で検出された。**重複**：W-6号溝に切られ、B下水田の畦畔を切っている。**規模・形態**：北からやや南西方向に湾曲しながら走る。ほぼ調査区を縦断し、検出長は47mで、北端部は調査区外へ続く。土層断面では、上幅は1.2m以上、深さ35cm以上の規模があり、断面形も皿状の中をU字状に掘り込んだような形態であることが知られた。底面は細かな凹凸が顕著であった。**埋没状態**：埋土の下層はB軽石を多量に含んでいる。**遺物**：混入品の土師器小片が数点出土。**時期**：埋土の状況から、中世とみられる。

W-4号溝跡（第16・17図、P.L.16）

位置：調査区中央で検出された。**重複**：W-2号溝に切られ、B下水田の畦畔を切っている。**規模・形態**：南北方向に調査区を縦断し、両端部は調査区外へ続いている。検出長は45mである。上幅50cm、深さ10cm前後の規模を計る。断面形はU字状で、底面には細かな凹凸が顕著であった。**埋没状態**：B軽石を多量に含む埋土であった。**時期**：埋土の状況から、中世とみられる。

C区W-1・2号溝



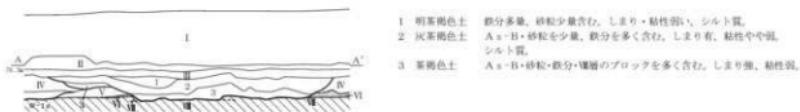
C区W-3号溝



C区W-4号溝



C区W-5号溝



C区W-3・6・7号溝



第17図 C区溝跡

W - 5 号溝跡 (第 16・17 図、P L . 16)

位置：調査区南東側で検出された。 重複：B下水田の畦畔を切っている。 規模・形態：南北方向に走り、29 m の長さが検出された。非常に浅いため北端は調査区内で消えてしまうが、南端部は調査区外へ続く。規模は、南端の土層断面によると上幅 2.7 m 以上、深さ 30cm ほどあったことが知られた。断面形は皿状を呈し、底面には細かな凹凸が頗著であった。 埋没状態：埋土中にはB軽石のほか砂粒・鉄分などを多量に含んでおり、非常に硬く締まっていた。 遺物：混入とみられる土師器・須恵器の小片が少量、砥石の破片が 1 点出土している。

時期：埋土の状況から、中世とみられる。

W - 6 号溝跡 (第 16・17 図、P L . 16)

位置：調査区北東隅で検出された。 重複：W - 3 号・7 号溝を切っている。 規模・形態：北から南へ 9.5 m 延び、直角に東へ走向を変えて 2.5 m の長さまで検出された。両端部は調査区外へ続いている。土層断面では上幅が 1.4 m 以上、深さ 56cm の規模であったことが知られた。断面形は幅広の V 字状を呈する。 埋没状態：埋土中にはB軽石を微量含み、流砂やシルト層が多くみられることから水路と考えられる。 時期：埋土の状況から、中世から近世とみられる。

W - 7 号溝跡 (第 16・17 図、P L . 16)

位置：調査区北東隅で検出された。 重複：W - 6 号溝に切られている。 規模・形態：南北方向に 9.5 m ほどが検出された。調査区の関係で上幅は 30cm 以上あったことが知られるのみである。深さ 20cm ほどで、断面形は皿状である。底面は凹凸が頗著であった。 埋没状態：流砂層が頗著で水路とみられる。 遺物：混入とみられる土師器・須恵器・陶器の小片が少量出土した。 時期：埋土の状況から、中世から近世とみられる。

3 土 坑

D - 1 号土坑 (第 18 図、P L . 16)

位置：調査区中央から東寄りで検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：径 50cm ほどの円形で、深さは 8 cm である。断面形は逆台形を呈する。 埋没状態：B軽石を少量含む埋土であった。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D - 2 号土坑 (第 18 図、P L . 16)

位置：調査区中央付近で検出された。 重複：B下水田の大畦畔を切っている。 規模・形態：径 30cm 弱の円形で、深さは 30cm ほどである。断面形は円錐形を呈する。 埋没状態：埋土中にはB軽石と砂粒を多量に含んでいる。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D - 3 号土坑 (第 18 図、P L . 16・17)

位置：調査区中央付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：東西に長い不整な平面形で長径は 93cm、深さ 6cm で、断面形は皿状を呈する。底面も凹凸が目立つ。 埋没状態：B軽石を多量に含む埋土である。 時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D - 4 号土坑 (第 18 図、P L . 17)

位置：調査区中央付近で検出された。 重複：B下水田面を切っている。 規模・形態：径 36 cm ほどの円形で、深さは 10cm を計る。断面形は逆台形である。 埋没状態：埋土中に B軽石を多量に含む。 時期：埋土の状況から、

中世とみられる。

D - 5号土坑 (第18図、P.L.17)

位置：調査区中央から北西寄りで検出された。重複：B下水田面を切っている。規模・形態：長径63cmほどの東西に長い梢円形で、深さは5cmほどと浅い。皿状の断面形で、底面は凹凸が見られる。埋没状態：埋土中にはB軽石を多量に含む。時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D - 6号土坑 (第18図、P.L.17)

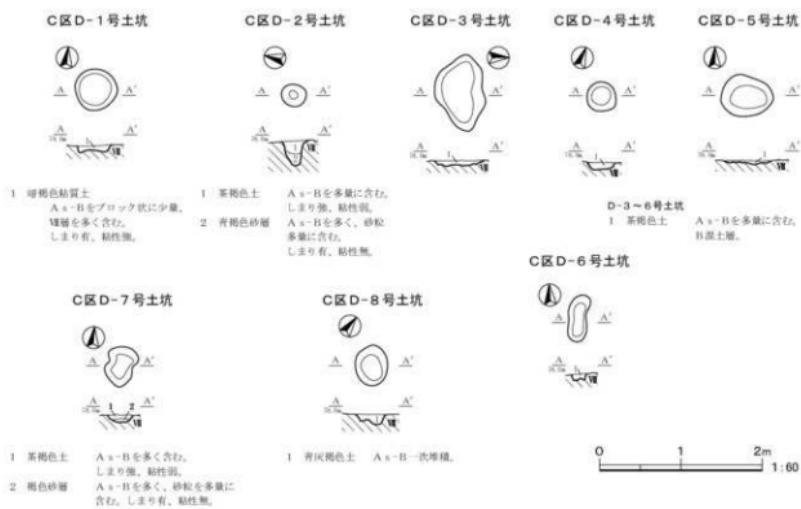
位置：調査区中央から北西寄りで検出された。重複：B下水田面を切っている。規模・形態：南北に長い不整形な平面形で、長辺部が60cmを計る。深さは8cmほどで、底面には凹凸が見られる。埋没状態：B軽石を多量に含む埋土である。時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D - 7号土坑 (第18図、P.L.17)

位置：調査区中央の西寄りで検出された。重複：B下水田面を切っている。規模・形態：南北に長い不整形な平面形で、長辺部で50cmを計る。深さは10cmほどで、断面形は皿状である。埋没状態：埋土はB軽石のほか砂粒を多量に含む。時期：埋土の状況から、中世とみられる。

D - 8号土坑 (第18図、P.L.17)

位置：調査区中央から北西寄りで検出された。重複：B下水田面を切っている。規模・形態：平面形は長径50cmほどの梢円形で、深さは12cmほどである。断面形は箱状で、鋤のような耕作痕が残る。埋没状態：A s-Bの降下で直接埋没している。時期：平安末



第18図 C区土坑

第2表 水田区画計測表

A 区

区画 No.	面積 (m ²)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中間高 (m)	田面比高 (cm)	南北地高 (cm)	東西地高上端面 (cm)	東西地高下端面 (cm)	東西地高高 (cm)	東西地高下端面 (cm)	東西地高上端面 (cm)	東西地高下端面 (cm)	備考
1	(327)	—	—	—	—	(28 ~ 39)	(58 ~ 66)	—	—	—	—	—	—
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	(53.5)	(6.8)	—	—	—	(3.30)	(15 ~ 33)	(42 ~ 53)	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	(164.4)	(7.3)	—	—	—	(4.6)	(29 ~ 46)	(61 ~ 73)	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7	(125.3)	(10.0)	(12.7)	—	—	(4.30)	(25 ~ 40)	(51 ~ 64)	(4.6)	(20 ~ 54)	(48 ~ 72)	—	—
8	(165.3)	(11.4)	—	—	—	(2.6)	(30 ~ 56)	(55 ~ 75)	—	—	—	—	1号南北大蛇畠の西
9	(80.5)	—	20.4	—	—	—	—	—	(3.30)	(31 ~ 63)	(51 ~ 90)	1号南北大蛇畠の西	1号南北大蛇畠の東
10	(167.1)	(12.6)	—	—	—	(7.4)	(37 ~ 69)	(85 ~ 113)	—	—	—	—	1号南北大蛇畠の東
11	(97.2)	—	(21.5)	—	—	—	—	—	(4.2)	(25 ~ 55)	(47 ~ 88)	1号南北大蛇畠の東	1号南北大蛇畠の東
12	(140.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
13	(14.5)	—	(7.1)	—	—	—	—	—	(4.3)	(30 ~ 45)	(55 ~ 66)	1号円状の区画	—
14	(63.4)	—	(11.5)	—	—	(4.30)	(21 ~ 25)	(42 ~ 57)	(4.9)	(17 ~ 35)	(44 ~ 60)	—	—
15	(49.2)	—	(13.3)	—	—	—	—	—	(4.5)	(18 ~ 47)	(48 ~ 78)	—	—
16	(68.5)	—	(13.5)	—	—	—	—	—	(6.1)	(14 ~ 33)	(40 ~ 62)	—	—
17	(43.4)	—	(11.5)	(78.26)	(3.80)	—	—	—	(5.0)	(19 ~ 34)	(42 ~ 61)	—	—
18	—	—	—	—	—	(5.9)	(19 ~ 36)	(45 ~ 68)	—	—	—	—	—
19	—	—	—	—	—	—	—	—	(5.3)	(21 ~ 48)	(48 ~ 65)	—	—
20	(70)	—	11.8	—	—	—	—	—	4.2	13 ~ 22	39 ~ 45	—	—
21	—	9.6	—	—	—	5.6	22 ~ 32	47 ~ 59	—	—	—	—	—
22	(29.5)	—	(7.5)	—	—	—	—	—	(6.6)	(20 ~ 33)	(47 ~ 66)	—	—
23	3.6	3.5	1.7	78.1	5.2	5.1	23 ~ 64	56 ~ 87	3.8	25 ~ 30	48 ~ 58	最少区画	—
24	—	—	(4.1)	—	—	—	—	—	(6.0)	(10 ~ 27)	(36 ~ 55)	北東に水口	—
25	—	7.5	—	—	—	3.7	17 ~ 35	34 ~ 70	—	—	—	—	西北に水口
26	—	—	—	—	—	—	—	—	(6.0)	(15 ~ 40)	(40 ~ 64)	—	—
27	(94.44)	—	(14.7)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(37 ~ 50)
28	—	(8.1)	—	—	—	(6.1)	—	—	—	—	—	—	南西側に窪み
29	—	—	(7.7)	—	—	—	—	—	(2.2)	—	—	—	—
30	—	(10.0)	—	—	—	(3.30)	—	—	—	—	—	—	—
31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
32	(61.9)	—	(6.7)	—	—	—	—	—	(2.2)	—	—	—	坪施交点の北西
33	—	—	(11.5)	—	—	—	—	—	(3.2)	(45 ~ 117)	(106 ~ 296)	坪施交点の南西	—
34	(85.2)	(11.8)	(9.4)	—	—	(6.4)	(225 ~ 250)	(250 ~ 270)	(7.9)	—	—	—	坪施交点の南東
35	(88.3)	—	(6.0)	—	—	—	—	—	(2.9)	(43 ~ 60)	(73 ~ 88)	—	—
36	(61.6)	7.6	(5.2)	—	—	0.9	(38 ~ 53)	(58 ~ 88)	(3.5)	(30 ~ 43)	(70 ~ 86)	—	—
37	(24.4)	—	7.5	—	—	—	—	—	2.4	18 ~ 54	65 ~ 73	—	—
38	(51.4)	9.2	—	—	—	(3.4)	(23 ~ 46)	(50 ~ 65)	—	—	—	—	—
39	(179.3)	(7.2)	(15.1)	(77.80)	—	(3.7)	(35 ~ 52)	(58 ~ 76)	(5.8)	(33 ~ 60)	(64 ~ 90)	—	—
40	(84.3)	—	(19.0)	—	—	—	—	—	(2.3)	(28 ~ 36)	(50 ~ 71)	—	—
41	—	—	(7.5)	—	—	—	—	—	(3.9)	(28 ~ 40)	(56 ~ 74)	—	—
42	(77.4)	8.0	—	—	—	(6.1)	(21 ~ 45)	(56 ~ 83)	—	—	—	—	—
43	(90.03)	(8.1)	(11.03)	—	—	(6.1)	(23 ~ 42)	(58 ~ 80)	(3.8)	(26 ~ 56)	(55 ~ 90)	—	—

B 区

区画 No.	面積 (m ²)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中間高 (m)	田面比高 (cm)	南北地高 (cm)	東西地高上端面 (cm)	東西地高下端面 (cm)	東西地高高 (cm)	東西地高下端面 (cm)	東西地高上端面 (cm)	東西地高下端面 (cm)	備考
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2	—	(1.6)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	(45.8)	(1.9)	(8.8)	—	—	(6.6)	—	—	(5.9)	(22 ~ 46)	(55 ~ 90)	南東側に水口	—
6	—	—	(9.7)	—	—	—	—	—	(3.4)	(22 ~ 46)	(53 ~ 65)	北東側に水口	—

C 区

区画 No.	面積 (m ²)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中間高 (m)	田面比高 (cm)	南北地高 (cm)	東西地高上端面 (cm)	東西地高下端面 (cm)	東西地高高 (cm)	東西地高下端面 (cm)	東西地高上端面 (cm)	東西地高下端面 (cm)	備考
1	(129.6)	—	(16.6)	—	—	—	—	—	—	(5.7)	(23 ~ 42)	(48 ~ 86)	—
2	—	(4.0)	4.4	—	—	(3.7)	(18 ~ 26)	(42 ~ 52)	3.6	16 ~ 40	45 ~ 72	1号南北大蛇畠の西	—
3	(84.2)	(4.6)	(20.3)	—	—	(2.9)	(55 ~ 99)	(95 ~ 120)	(3.0)	(20 ~ 48)	(50 ~ 85)	1号南北大蛇畠の東	—
4	(87.9)	—	(17.3)	—	—	—	—	—	(6.1)	(19 ~ 39)	(49 ~ 67)	北東側に水口C	—
5	41.7	10.3	4.7	77.84	3.2	3.3	20 ~ 44	40 ~ 67	3.4	22 ~ 35	60 ~ 73	北西側に水口C	—
6	(146.2)	7.7	(18.0)	—	—	2.6	23 ~ 55	55 ~ 92	(4.0)	(28 ~ 50)	(68 ~ 94)	1号南北大蛇畠の東	—
7	(325.4)	(12.6)	22.4	(77.86)	5.7	(6.2)	(26 ~ 39)	(42 ~ 71)	7.3	22 ~ 80	47 ~ 107	北西中央に水口A	—
8	(27.4)	—	(9.0)	(3.5)	—	(1.9)	(31 ~ 46)	(46 ~ 58)	(3.1)	(30 ~ 40)	(65 ~ 70)	1号南北大蛇畠の西	—
9	(129.2)	8.4	(18.2)	—	—	4.5	61 ~ 104	108 ~ 150	(5.0)	(36 ~ 73)	(64 ~ 114)	1号南北大蛇畠の東	—
10	(57.3)	3.8	(16.8)	—	—	3.3	160 ~ 180	200 ~ 214	(3.7)	(19 ~ 66)	(53 ~ 100)	1号南北大蛇畠の東	—
11	(189.0)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	南辺中央に水口A	—
12	(83.36)	7.0	(15.2)	—	—	2.3	125 ~ 190	188 ~ 241	(4.4)	(36 ~ 68)	(67 ~ 115)	北辺に水口B	—
13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	南辺に水口B	—
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第3表 溝跡一覧

調査区	造営No.	グリッド	走行	規 模 (m)			断面型	掘込面	切 合い 割 > 間	時期	備考		
				上 幅	下 幅	深さ							
A	W - 1	X125 ~ 134 Y45 ~ 49	北東→南西	1.2 ~ 2.6	0.7 ~ 1.8	0.13	38	直状	VI層より上	W - 1 > 2 B下水田畦畔	中世	Ab-B 多量。非常に固くしまってい る。Ab-E の窪面構造か?	
A	W - 2	X125 ~ 129 Y48 ~ 49	北東→南西	0.5 ~ 0.9	0.3 ~ 0.7	0.32	22	逆台形	VI層より上	W - 1 > 2 B下水田畦畔	平安末 ~中世	Ab-B 多量。大ブロック多量 に含む。入為的埋戻し。Ab-B の窪 面構造か?	
A	W - 3	X126 ~ 133 Y46 ~ 49	北東→南西	0.5 ~ 1.2	0.4 ~ 0.7	0.22	27	逆台形	VI層より上	W - 1 > 2 B下水田畦畔	平安末 ~中世	W - 2 と同様の特徴。	
A	W - 4	X141 ~ 144 Y48 ~ 50	北東→南西	0.9	0.3 ~ 0.6	0.17	13	直状	VI層より上	W - 1 > 2 B下水田畦畔	中世	泥砂層や底面の筋分沈着から、水路 路跡。	
A	W - 5	X143 ~ 144 Y49 ~ 51	北東→南西	0.7	0.3 ~ 0.4	0.20	13	U字状	VI層より上	W - 1 > 2 B下水田畦畔	平安末 ~中世	Ab-B 多量。Ab-B 層下後方もない 特徴。	
A	W - 6	X145 ~ 146 Y50 ~ 51	北→南	0.5 ~ 1.5	0.2 ~ 1.2	0.08	5.5	直状	VI層の上		平安末 ~中世	Ab-B 多量。僅・窪面のブロックを多量に含 む。入為的埋戻し。Ab-B の窪面構造か?	
A	W - 7	X145 ~ 146 Y50 ~ 53	北→南	0.4 ~ 0.8	0.2 ~ 0.5	0.08	13.5	直状	VI層の上		平安末 ~中世	W - 6 と同様の特徴。	
A	W - 8	X145 ~ 146 Y50 ~ 53	北→南	1.1	0.5 ~ 0.6	0.27	13.5	U字状	VI層より上	B下水田畦畔	中世	泥砂層や底面の筋分沈着から、水路 路跡。	
A	W - 9	X145 ~ 146 Y50 ~ 53	北→南	0.5	0.2 ~ 0.3	0.12	13.5	U字状	VI層の下	B下水田畦畔	平安末	Ab-B 多量。Ab-B 層のブロックを多量に含 む。入為的埋戻し。Ab-B の窪面構造か?	
A	W - 10	X145 ~ 146 Y50 ~ 53	北→南	(1.5)	0.4 ~ 0.8	0.24	14	箱形	VI層の上	B下水田畦畔 1号ビット列	中世	Ab-B 中量。底面に泥砂層。水路跡。 Ab-B の一次堆積で埋戻。	
A	W - 11	X48 Y53 ~ 57	北→南	0.6	0.20	0.05	20	直状	VI層の上	B下水田畦畔 1号ビット列	平安末 ~中世	Ab-B, VI 層のブロックを多量に含む。Ab-B の窪面構造か?	
A	W - 12	X155 ~ 156 Y60 ~ 68	北→南東	0.5	0.2 ~ 0.4	0.20	44	逆台形	VI層より上	B下水田畦畔 W - 14 > 12 > 13	中世	Ab-B 中量。窪面のブロックを多量 に含む。入為的埋戻し。	
A	W - 13	X154 ~ 156 Y60 ~ 67	北→南西 北→南東	0.5 ~ 0.9	0.2 ~ 0.6	0.10	31	逆台形	VI層より上	B下水田畦畔 W - 14 > 12 > 13	平安末 ~中世	Ab-B 多量。VI 層のブロックを多量に含 む。入為的埋戻し。Ab-B の窪面構造か?	
A	W - 14	X155 Y60 ~ 66	北→南 北→南東	0.5	0.3 ~ 0.5	0.10	32	逆台形	VI層より上	B下水田畦畔 W - 14 > 12 > 13	中世	Ab-B 多量。VI 層のブロックを多量に含 む。入為的埋戻し。	
A	W - 15	X156 ~ 160 Y62 ~ 71	北→南東	2.5 ~ 3	(1.0)	(0.62)	43	直状	IV層より上		近世	泥砂層と断続。B区段と連続 か?	
A	W - 16	X161 ~ 164 Y67 ~ 73	北→南東	0.6 ~ 1.2	0.2 ~ 0.5	0.25	30	直状	IV層より上		近世	泥砂層と断続。B区段と連続 か?	
A	W - 17	X161 ~ 174 Y67 ~ 74	北→南東	(0.60)	29	直状?	VI層より上		W - 16 > 16 > 16 日	中世 ~近世	Ab-B 多量。泥砂層が累層。 泥砂層あり。水路跡。		
A	W - 18a	X161 ~ 164 Y67 ~ 74	北→南東	(0.36)	31	直状	VI層より上		W - 16 > 16 > 16 日	近代?	泥砂層。水路跡。		
A	W - 18b	X161 ~ 164 Y67 ~ 74	(4)	(0.24)	31	直状	VI層より上		W - 16 > 16 > 16 日	近代?	砂粒少量。		
A	W - 18c	X161 ~ 164 Y67 ~ 74	北→南東	(0.67)	31	U字状	VI層より上		B区段 - 5と連続 か?	近世?	シルト質層・泥砂層が顯著。水路 跡。		
A	W - 18d	X161 ~ 164 Y67 ~ 74	北→南東	(0.65)	31	U字状	VI層より上		B区段 - 5と連続 か?	近世?	泥砂層が顯著。水路跡。		
A	W - 19	X163 ~ 164 Y72 ~ 76	北→南	0.8 ~ 1.0	0.2 ~ 1.0	0.10	18	逆台形	VI層の下	W - 20 > 19	平安末	Ab-B の一次堆積で埋戻。南北大陸 間に伴う水路跡。	
A	W - 20	X166 ~ 173 Y73 ~ 75	東→西	0.3 ~ 0.8	0.2 ~ 0.6	0.16	28	U字	VI層の上	B区段の埋戻。W - 20 > 19	中世	Ab-B 多量。VI 層のブロックを多量に含 む。	
調査区	造営No.	グリッド	走行	規 模 (m)			断面型	掘込面	切 合い 割 > 間	時期	備考		
				上 幅	下 幅	深さ						検出長	
B	W - 1	X149 ~ 196	北→南	(1.7)	0.5	0.32	1.6	直状	IV層の上		中世 ~近世	Ab-B 少量。砂粒を多く含む。	
B	W - 2	X166 ~ 192	北西→南東	5.0 ~ 6.7	(1.8)	0.60	2.8	直状	VI層より上	A区段 - 15の透視か?	近世?	Ab-B 濃量、多量の泥砂層。水路跡。	
B	W - 3	X171 Y90 ~ 92	北西→南東	1.3	0.4	0.3	2.8	直状	VI層の上		中世 ~近世	Ab-B 中量含む。底に泥砂層。水路跡。	
B	W - 4	X171 ~ 172 Y90	北西→南東	0.8	0.4	0.25	2.8	U字状	VI層より下		近世?	Ab-B 濃量、砂粒を多く含む。	
B	W - 5	X171 ~ 172 Y90	北西→南東	1.6	0.6 ~ 0.8	0.32	2.8	直状	VI層より下	A区段 - 16の透視か?	* 近世?	Ab-B 濃量、砂粒を多く含む。	
B	W - 6	X172 ~ 173 Y90	北西→南東	2.7	(0.9)	0.9	2.8	U字状	VI層より上	A区段 - 16の透視か?	近世~ 古代?	多量の泥砂層。水路跡。	
調査区	造営No.	グリッド	走行	規 模 (m)			断面型	掘込面	切 合い 割 > 間	時期	備考		
				上 幅	下 幅	深さ						検出長	
C	W - 1a	X136 ~ 138 Y98 ~ 99	東→西?				(0.35)	直状	II層より下	W - 1a > 1b > 1 1c > 1d	近代	Ab-B 濃量、砂粒多量。	
C	W - 1b	X136 ~ 138 Y98 ~ 99	東→西?				(0.54)	*	III層より上	*	Ab-B 濃量、泥砂層あり。水路。		
C	W - 1c	X136 ~ 138 Y98 ~ 99	東→西	0.65	0.2 ~ 0.3	0.42	4	U字?	*	*	近世	VI層のブロック多量。砂粒少量。	
C	W - 1d	X136 ~ 141 Y98	東→西				0.24	7.8	直状?	VI層の下	*	中世~ 近世	Ab-B 少量。泥砂層。水路。
C	W - 2	X136 ~ 141 Y98	東→西	(0.98)			(0.50)	19.2	U字状	IV層より上	Ab-B 濃量。泥砂層あり。水路。		
C	W - 3	X142 ~ 144 Y97 ~ 97	北→南	(1.24)	0.1 ~ 0.6	(0.35)	47	直状+ U字状	VI層の上	W - 6 > 3	中世	Ab-B 多量。	
C	W - 4	X149 Y87 ~ 98	北→南	0.3 ~ 0.7	0.2 ~ 0.4	(0.10)	45	U字?	VI層より上	W - 2 > 4	*	Ab-B 多量。	
C	W - 5	X143 ~ 144 Y99 ~ 97	北→南	(2.7)	-2.1	(0.30)	29	直状	IV層の上	B下水田畦畔	Ab-B 中量。窪面のブロック多く含 む。		
C	W - 6	X143 ~ 144 Y86 ~ 87	北→東	(1.4)	0.2 ~ 0.3	0.56	12	V字状	IV層の上	W - 6 > 3 ~ 7	中世~ 近世	Ab-B 濃量。泥砂層・シルト層あり。水路。	
C	W - 7	X144 Y86 ~ 88	北→南				(0.22)	9.5	直状	VI層より上	W - 6 > 3 ~ 7	*	Ab-B 濃量、泥砂層あり。水路。

第4表 土坑一覧

調査区	遺構No	グリッド	平面形	断面形	規 横 (m)			掘込・検出面	覆土	切 合い 新 > 旧	時 期	備 考
					長辺	短辺	深さ					
A	D-1	X131 Y46	長円形	逆台形	0.78	0.52	0.24	VIより上	B混		平安末～中世	
A	D-2	X132 Y45	不整形	皿状	0.85	0.52	0.08	VIより上	B混	W-1 >	平安末～中世	
A	D-3	X137 Y48	長円形	皿状	0.94	0.44	0.14	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末～中世	
A	D-4	X144 Y50	長円形	皿状	0.60	0.45	0.14	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末～中世	
A	D-5	X146 Y54	長円形?	皿状	0.66	0.47	0.08	Vより上	Aa-B無量		中世	
A	D-6	X155 Y63	不整形	箱型	0.64	0.34	0.11	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末～中世	
A	D-7	X156 Y63	不整形	皿状	0.82	0.65	0.90	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末～中世	
A	D-8	X157 Y67	楕円形	皿状	0.76	0.62	0.16	VIより上	B混		平安末～中世	
A	D-9	X158 Y69	長円形	皿状	0.55	0.34	0.07	VIより上	B混		平安末～中世	
A	D-10	X165 Y70	楕円形	U字状	0.60	0.52	0.17	VIより上	B混	> B水田畦畔	平安末～中世	
A	D-11	X166 Y73	円形?	皿状	0.57	0.44	0.08	VIより上	B混土		中世	
A	D-12	X167 Y74	不整形	皿状	0.57	0.54	0.10	VIより上	B混土		中世	
A	D-13	X165 Y73	長円形	U字状	0.52	0.36	0.11	VIより上	B混		平安末～中世	
A	D-14	X173 Y75	円形	U字状	0.42		0.14	VIより上	B混土		中世	
A	D-15	X173 Y76	長円形	U字状	0.69	0.43	0.24	VIより上	B混土		中世	
A	D-16	X176 Y74	不整形	皿状	0.62	0.48	0.08	VIより上	B混土		中世	
A	D-17	X176 Y77	不整形	箱型	0.53	0.38	0.16	VIより上	B混土	> B水田畦畔	中世	
A	D-18	X180 Y76	不整形	U字状	0.42	0.32	0.10	VIより上	B混土		中世	
A	D-19	X181 Y74	長円形	箱型	0.30	0.25	0.11	VIより上	B混		平安末～中世	
調査区	遺構No	グリッド	平面形	断面形	規 横 (m)			掘込・検出面	覆土	切 合い 新 > 旧	時 期	備 考
					長辺	短辺	深さ					
C	D-1	X142 Y92	円形	逆台形	0.50		0.08	VIより上	B混土		中世?	
C	D-2	X141 Y92	円形	円錐形	0.29		0.30	VIより上	B混	> B水田畦畔	中世	砂粒多量
C	D-3	X139 Y91	不整形	皿状	0.93	0.60	0.06	VIより上	B混土		中世	
C	D-4	X139 Y92	円形	逆台形	0.36		0.10	VIより上	B混土		中世	
C	D-5	X138 Y90	楕円形	皿状	0.63	0.46	0.05	VIより上	B混土		中世	
C	D-6	X138 Y91	不整形	箱型	0.60	0.20	0.08	VIより上	B混土		中世	
C	D-7	X139 Y93	不整形	皿状	0.50	0.30	0.10	VIより上	B混		中世	砂粒多量
C	D-8	X138 Y89	楕円形	箱型	0.50	0.40	0.12	VI	Aa-B		平安末	耕具痕

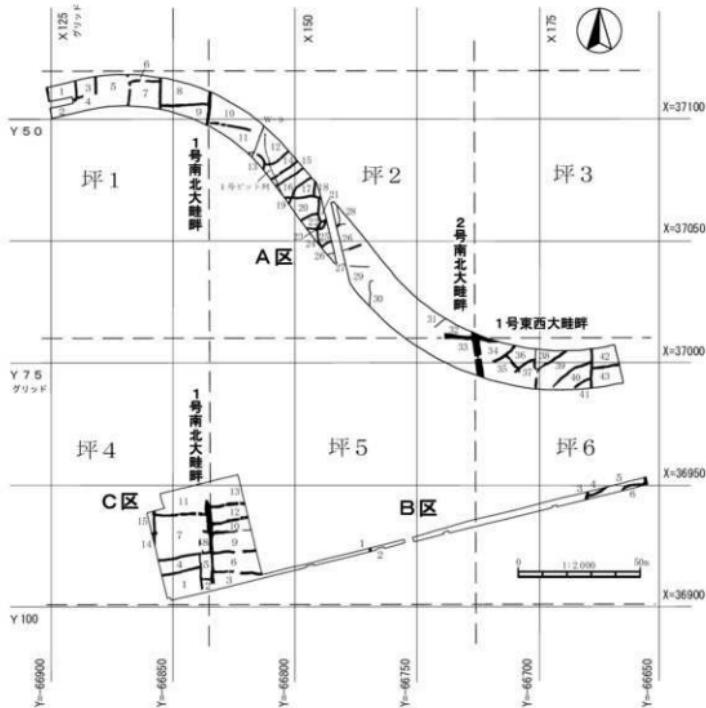
VI まとめ

調査の結果、A s - B 層下の水田跡が調査区のほぼ全域で検出された。II-2「周辺の遺跡」でも記したように、本遺跡周辺ではこれまでに多くの同時期の水田跡の調査の蓄積があり、本地域の平安時代末期の水田跡が1町(約109 m)方格の条里制の地割を踏襲していることが明らかになっている。これらの成果を参考にしつつ、今回の調査で気付いたいくつかの点について記しまとめとしたい。

1 条里型区画について

A区では南北大畦畔が2条、東西大畦畔が1条検出された。このうち2号南北大畦畔と1号東西大畦畔は交差しており、坪境の交点にあたっていた。C区でもA区と連続する南北大畦畔1条が検出されたが、A区2号南北大畦畔の延長部が続くと考えられるB区では、後世の削平により畦畔は確認できなかった。

從来の調査からは、この周辺の条里地割の南北基準線は、磁北から 2° 前後西に傾いていると考えられている。今回の調査結果をみると、A区2号南北大畦畔の走向は調査区内の状況でみる限り、これよりさらに西へ傾くよううに見える。また、これに交差する1号東西大畦畔はほぼ東西方向の走向で、2号南北大畦畔とは直交していない状況であった。一方、A区とC区の1号南北大畦畔を結ぶ軸線は、磁北からわずかに西に傾く位置となり、前



第19図 条里型区画推定図

記の 2° 前後の傾きを考えることはできなかつた。むしろN- 30° -Wほどの南北の基準線を想定すると、坪境交点であるA区2号南北大畦畔と1号東西大畦畔の交差部との距離もちょうど1町分の109mとなる。また、東西大畦畔の走向もこの南北基準線とほぼ直交する。これらから区画基準線を想定すると第19図のようになり、南北3列、東西2列の6坪の条里型区画が推定された。

ここで想定した条里区画の基準線は今回の調査区内のみからの結果であり、従来の周辺部での検討結果とは異なるものとなつた。地形の影響などによって、同一の設計基準であつても多少の方位の歪みや距離の誤差が生じてくる可能性も考えられる。今回は及ばなかつたがさらに広域な範囲での検討が必要である。

2 水田区画と利水について

各坪内の水田の区画については、北西の坪1（A区西端部）や南西の坪4（C区）、さらに中央南の坪5（C区）の内部が比較的整然とした区画であるのに対し、中央北の坪2（A区中央部）では極めて不整形で変則的な区画が連続していた。南東の坪6（A区東端部）の内部もやや不定形で棚田のような景観を呈するが、南北畦畔はほぼ南北方向に沿つており、東西の畦畔の斜行が大きいことによる。水田の床土であるVII層上面の標高をみると、A区の西端部と比較して東端部では80cm以上低く、中でも1号、2号南北大畦畔の間の坪2では55cmの比高差があり、他と比べて特にこの間の傾斜が強い。この傾斜に対応するため、幅が狭く南北から北東方向に長い区画を棚田状に配しているものとみられる。さらに変則的なA区17から27付近の区画についても、基本的には地形上の制約による水利の関係から生じたものであろう。

条里型水田における配水は、水口を用いた田越しの掛け流しが主であるためか、これまで灌漑用の用水路についての発見例は少ない。今回の調査では2号南北大畦畔に伴つてW-19号溝が検出された。これまでにも中央に溝が走る大畦畔は周辺遺跡でいくつか検出されているが、今回は坪境交点という特別な位置でもあるためか、水利の形態に関する新たな知見が得られた（第9図）。水口Aは東西大畦畔を切つているようで、坪境を越えての掛け流しになると思われる。一方、水口Bは区画32から南の水田への水口ではなくW-19号溝へ続いており、余分な水を水路に戻すための施設であった。さらに水口Cについても、区画34の水田面やW-19号溝の底面よりもかなり高い位置にあり、水口底面の傾斜からもW-19号溝からの引水ではなく、区画34で余った水の排水のための施設であるとみられた。このようにすべての水を掛け流しで配水するのみではなく、余水は水路にもどしていることが判明した。また、W-19号溝内の堰状の施設の付設からみて、排水後は下流側の区画で再び取り込まれて利用されているものと考えられる。

3 休耕田について

C区の区画9・10・12では、水田面に深い凹凸が顕著に認められた。またこれらの間の畦畔についてはほとんど高さがなく、幅も一定せずに屈曲している状況で、休耕田であったものと考えられた。同様の状況が南部拠点地区遺跡群No.6でも指摘されている。また、As-Bの降下の時期については9月頃と考えられていることから、水田面に鋤の耕起痕が顕著に認められたA区の区画26についても、As-B降下の直前には稲株のある水田面とはなつていなかつたことを示しているものであろう。A区中央付近で調査区を縦断して検出された1号ピット列は、遺構の性格は明らかではないが、区画12・14・15・16の水田面のみならず畦畔も横切つて穿たれていた。これらの区画もまたAs-B降下時には水田として利用されていなかつたことが考えられる。

主な参考文献

- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群No.1』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009『南部拠点地区遺跡群No.2』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010『南部拠点地区遺跡群No.3』
前橋市教育委員会 2010『南部拠点地区遺跡群No.4』
前橋市教育委員会 2010『南部拠点地区遺跡群No.5』
前橋市教育委員会 2011『南部拠点地区遺跡群No.6』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1998『横手湯田II遺跡・西田II遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1999『西田III遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『横手南川塙遺跡・横手湯田遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『西田遺跡・村中遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『鶴光路横樋遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002『池丸仲田遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001『龜里平塙遺跡・横手宮田遺跡・横手早塙田遺跡・横手南川塙遺跡』

写 真 図 版



調査地より浅間山方向を望む（右後方は棟名山）（南東から）

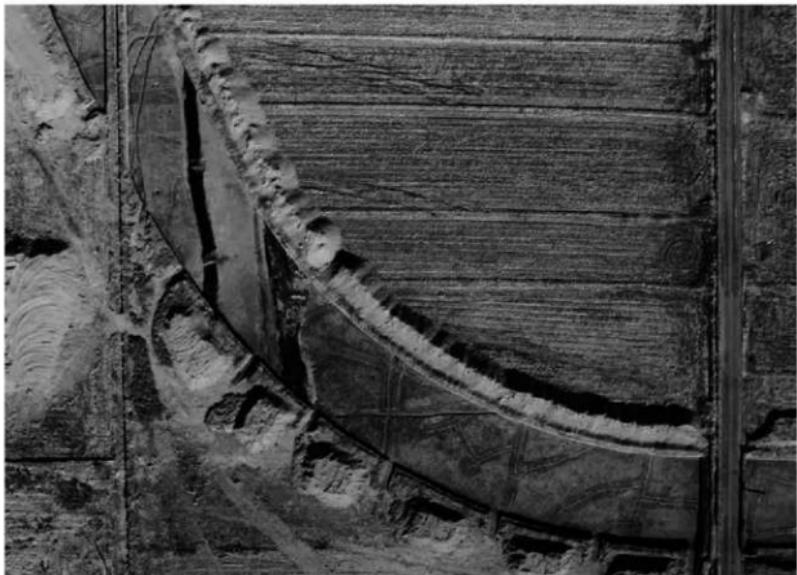


調査区全景（合成写真）（上が北）

A区 PL. 2



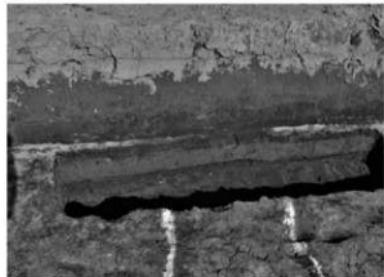
A区西半部（上が北）



A区東半部（上が北）



A区西部水田区画1～9（上が北）



水田区画1・3間 畦畔土層断面（A～A'）（南から）



1号南北大畦畔（上が北）



1号南北大畦畔（南から）



1号南北大畦畔 土層断面（B～B'）（南から）

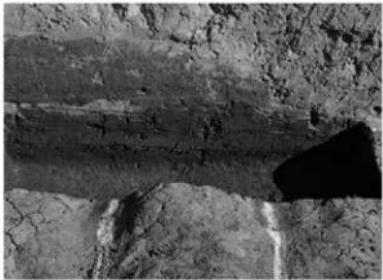
A区 PL. 4



水田区画 12 ~ 28 (上が北東)



水田区画 12 ~ 21、W-11号溝、1号ピット列（西から）



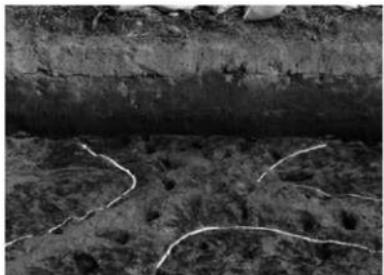
水田区画 14・15間 哇畔土層断面 (C~C') (南西から)



水田区画 12 ~ 27 (南から)



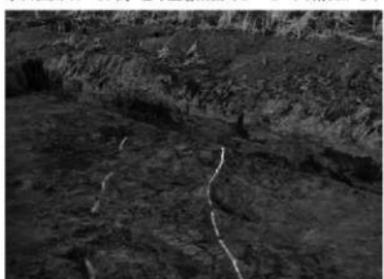
水田区画 23 (南西から)



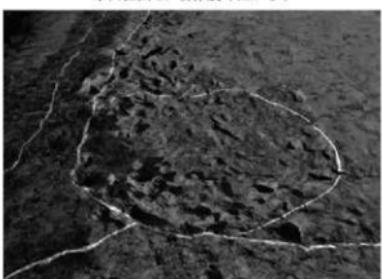
水田区画 18・21 間 岩畔土層断面 (D～D') (南西から)



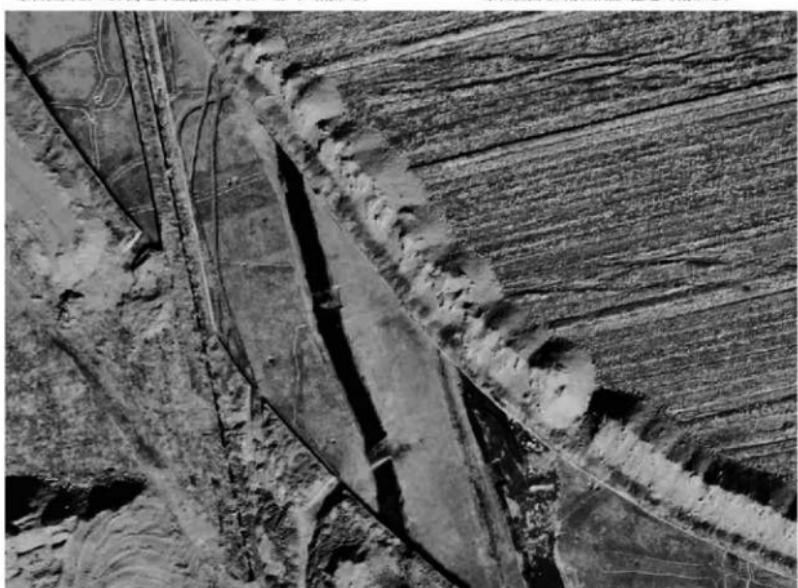
水田区画 26 耕作痕 (西から)



水田区画 21・28 間 岩畔土層断面 (E～E') (南から)



水田区画 28 南西隅部 産地 (南から)

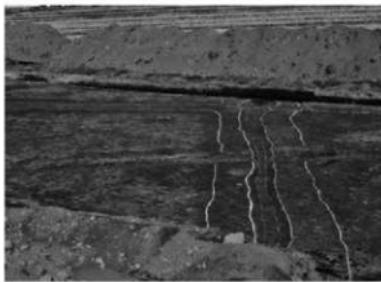


A区中央付近 (上が北)

A区 PL. 6



A区東端部水田区画 31 ~ 43 (上が北)



2号南北大畦畔・W-19号溝（南から）



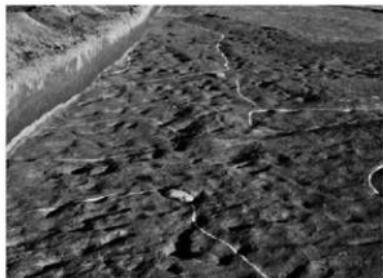
2号南北大畦畔・W-19号溝（北から）



2号南北・1号東西大畦畔（西から）



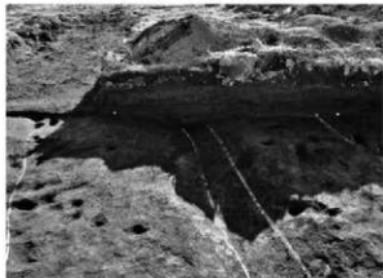
2号南北・1号東西大畦畔 交差部（北から）



2号南北・1号東西大畦畔 交差部（西から）



2号南北大畦畔・W-19号溝 土層断面（A～A'）（南東から）



2号南北大畦畔・W-19号溝 土層断面（F～F'）（北から）



東端部水田区画 36～43（北東から）



水田区画 39・42間 畦畔土層断面（F～F'）（南から）



W-1～3号溝（西から）



W-1・2号溝 土層断面（東から）

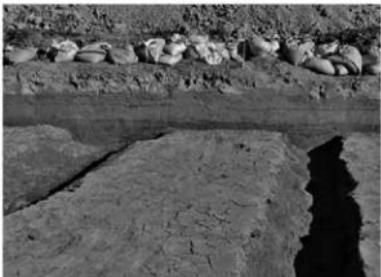


W-3号溝 土層断面（東から）

A区 PL. 8



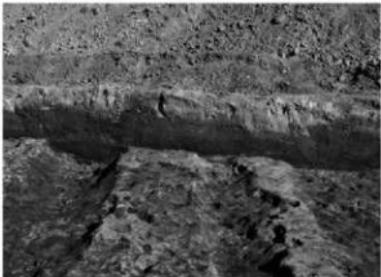
W-4・5号溝（南西から）



W-4号溝（左）、W-5号溝（右）土層断面（南西から）



W-6～10号溝（南西から）



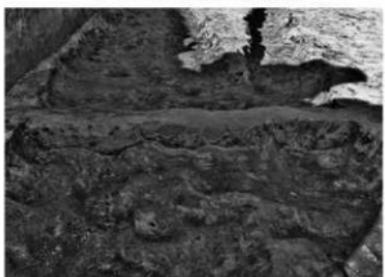
W-8号溝（左）、W-9号溝（右）土層断面（南西から）



W-11号溝 土層断面（南から）



W-12～14号溝（南から）



W-12号溝（中）・13号溝（左）・14号溝（右）土層断面（南から）



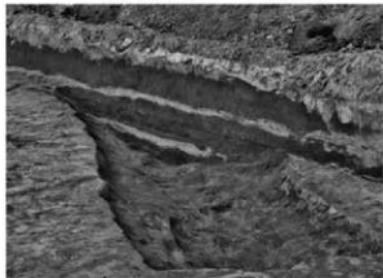
W-15号溝（南から）



W-15号溝 土層断面 (B~B') (北から)



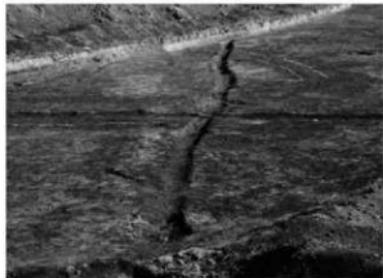
W-16号溝、W-17・18号溝・擾乱大溝 (南東から)



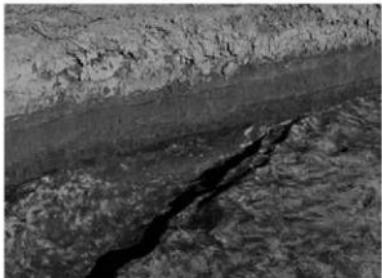
W-16号溝 土層断面 (A~A') (南から)



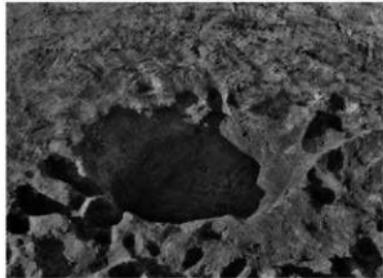
W-17・18号溝 土層断面 (A~A') (南から)



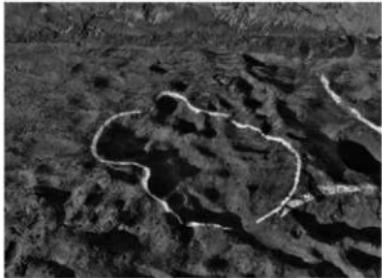
W-20号溝 (南西から)



W-20号溝 土層断面 (A~A') (南から)

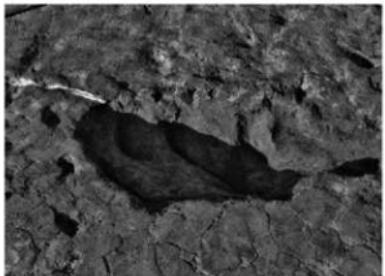


D-1号土坑 (南から)

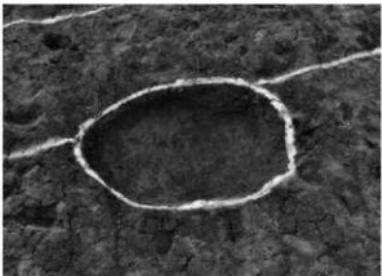


D-2号土坑 (南から)

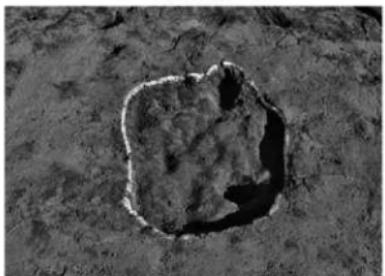
A区 P.L. 10



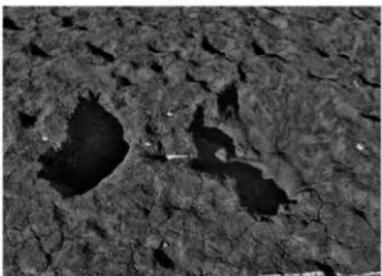
D-3号土坑（南から）



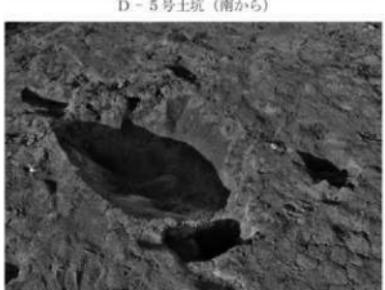
D-4号土坑（北から）



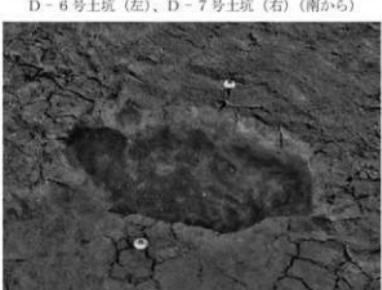
D-5号土坑（南から）



D-6号土坑（左）、D-7号土坑（右）（南から）



D-8号土坑（南から）



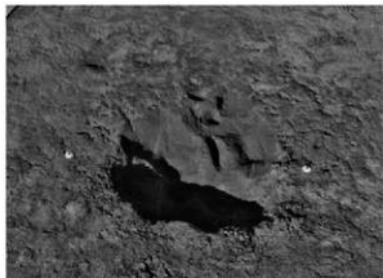
D-9号土坑（南から）



D-10号土坑（南から）



D-11号土坑（南から）



D-12号土坑（南から）



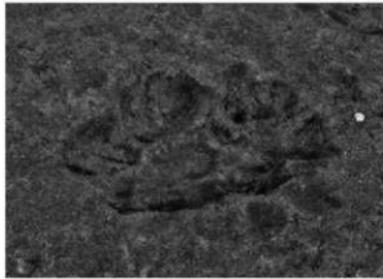
D-13号土坑（南から）



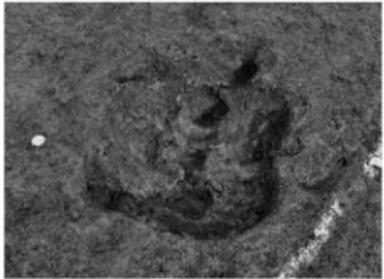
D-14号土坑（南から）



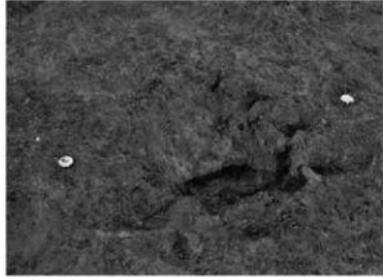
D-15号土坑（南から）



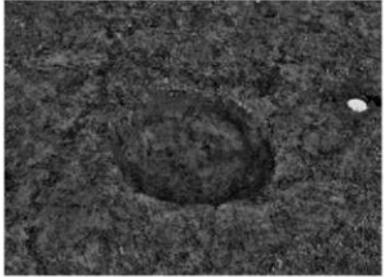
D-16号土坑（南から）



D-17号土坑（南から）



D-18号土坑（南から）



D-19号土坑（南から）

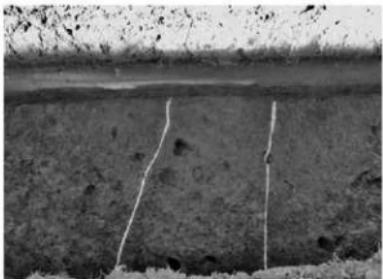
B区 P.L. 12



B区東半部（上が北）



B区西半部（西から）



水田区画1・2間 畦畔（南から）



B区東半部（東から）



水田区画5・6間 水口（南から）



水田区画3・4間 畦畔土層断面（南から）



W-1号溝（南から）



W-2号溝（南から）



W-2号溝 土層断面（南東から）



W-3～6号溝（南東から）



W-3号溝（左）、W-4号溝（右）（南から）

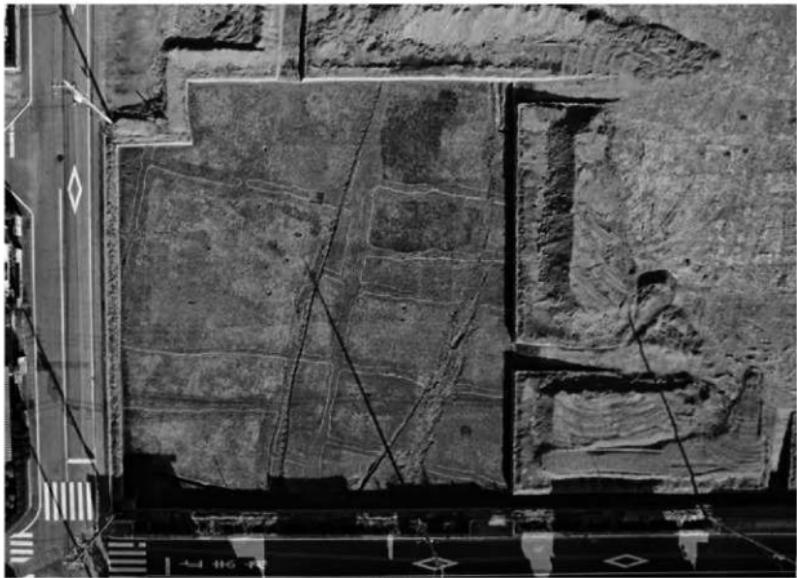


W-5号溝（南から）



W-6号溝（南から）

C区 P.L. 14



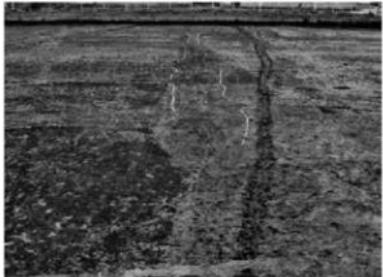
C区全景（上が北）



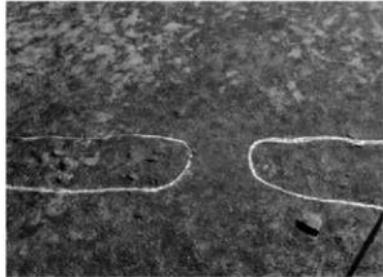
C区全景（左が北）



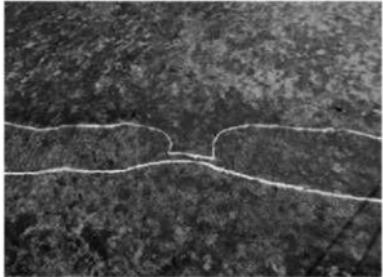
1号南北大畦畔（南から）



1号南北大畦畔、W-4号溝（北から）



水田区画7・11間 水口（南から）。



水田区画12・13間 水口（南から）



水田区画4・7間 畦畔土層断面（東から）



W-1・2号溝（西から）



W-1号溝 土層断面（東から）

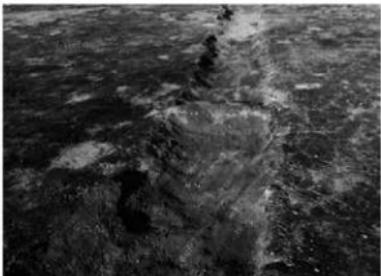


W-2号溝 土層断面（東から）

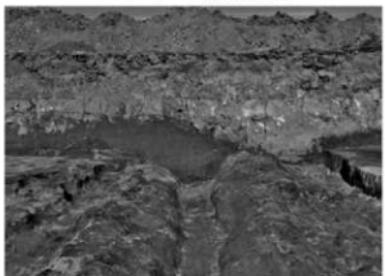
C区 P.L. 16



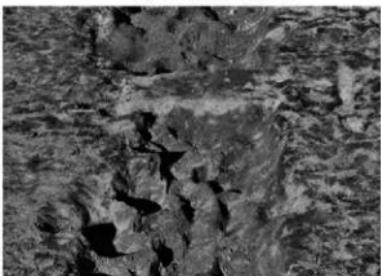
W - 3・5~7号溝（北から）



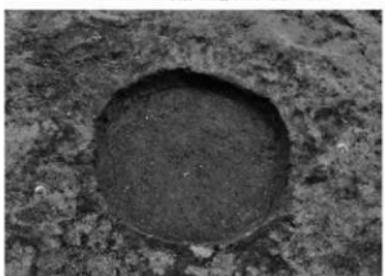
W - 3号溝 土層断面（南から）



W - 3・6・7号溝 土層断面（南から）



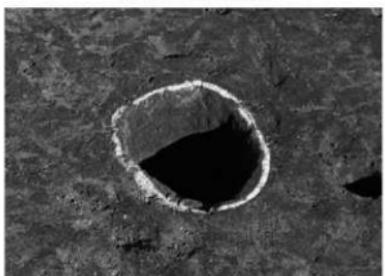
W - 4号溝 土層断面（南から）



D - 1号土坑（南から）



D - 1号土坑 土層断面（南から）



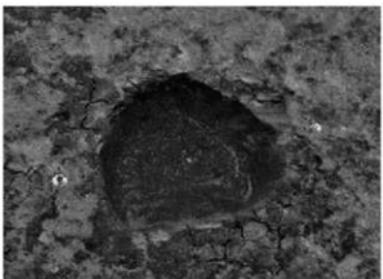
D - 2号土坑（南から）



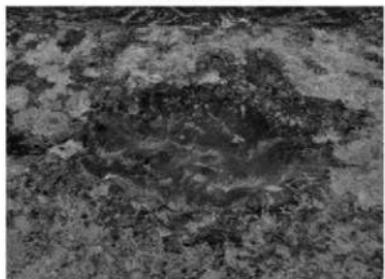
D - 3号土坑 土層断面（南から）



D-3号土坑 土層断面（東から）



D-4号土坑（南から）



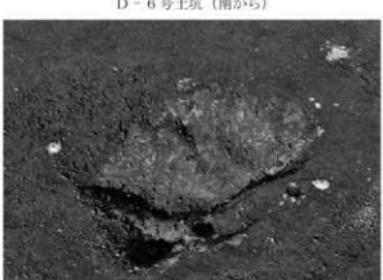
D-5号土坑（南から）



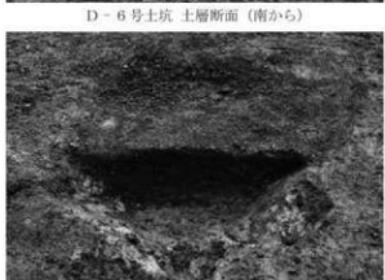
D-6号土坑（南から）



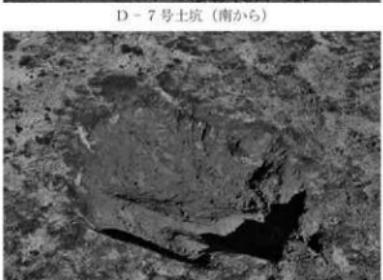
D-6号土坑 土層断面（南から）



D-7号土坑（南から）



D-7号土坑 土層断面（南から）



D-8号土坑（南から）

抄 錄

ふりがな 書名	なんぶきよてんちくいせきぐん なんぱーはち 南部拠点地区遺跡群 No.8
副書名	前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	
シリーズ名	
編著者名	福田貴之 井上 太
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒 379-2146 群馬県前橋市公田町 1002 番地 1 Tel 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒 371-0853 群馬県前橋市総社町 3-11-4 Tel 027-280-6511
発行年月日	西暦 2014 年 3 月 26 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
南部拠点 地区遺跡群 No.8	群馬県前橋市龜里町 943-2, 944-4, 961-4, 962-3, 962-6, 963-4, 963-5, 964-4, 964-5, 965-4, 965-5, 967-2, 968-4, 969-3, 971-4, 971-5, 971-6, 972-5, 972-6	10201	00785 (25682)	36° 19' 58"	139° 5' 22"	2013.11.18 ~ 2014.01.27	6,365 m ²	土地区画 整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
南部拠点 地区遺跡群 No.8	生産跡	平安時代末 中世以降	A s - B 層下水田跡・ 溝跡 溝跡・土坑	奈良～平安時代の土 師器・須恵器片 中・近世の陶磁器片	平安時代末期の条 里水田の坪境を検 出。

南部拠点地区遺跡群 No.8

前橋市南部拠点西地区土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 26 年 3 月 24 日 印刷

平成 26 年 3 月 26 日 発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／前橋市教育委員会

群馬県前橋市総社町 3-11-4

印刷／朝日印刷工業株式会社